

### 和仏法律学校講義録

内田, 嘉吉 / 岡, 實 / 志田, 友吉 / 富井, 政章 / 掛下, 重次郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3-5

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1902-01-15

明治三十四年十一月十四日第三編館務認可 每月二回  
明治三十五年一月十五日發行

三十五年度 第三學年

# 和佛法律學校講義錄



第五號

和佛法律學校發行



第三學年第五號目次

民法物權	自第七章(自二九)至第十章(自三四)	法學博士 富井 政章
民法相續	(自五〇至五五)	法律學士 掛下 重次郎
民法手形	(自五九至六八)	法學士 志田 友吉
商法海商	(自四六至五三)	法學士 内田 嘉吉
行政法	(自一五至二二)	法學士 岡 實

雜報

○十五年未滿ノ養子ノ離縁○女婿ト爲ス爲メニスル養子縁組○茶港輸入製茶量及ヒ其價額○米國移住民數○講談會ノ延期○郵便裁判試験

場合ニ其償還ニ必要ナルダケノ金額ヲ調フルコトハ場合ニ依ラハ甚ダ迷感ナ  
コトデアル故ニ法律ハ所有者ノ選擇ニ從テ實際ニ支出シタ費用カ又ハ増價額  
ヲ償還スルコトヲ得ルモノトシテ實際少イ方ヲ償還スレバ足レリトシテアル、  
而モ尚ホ其請求ニ因テ裁判所ハ之ニ相當ノ猶豫ヲ許與スルコトヲ得ルモノト  
シテアリマス、留置權者ハ善意デアルカカ惡意デアルカト云フコトハ學說ニ任シ  
テ法律上ハ此最後ノ點ニ付テ惡意ノ占有者ト同一ニ扱テ居ル又現ニ他人ノ物  
タルコトヲ知ル以上ハ至當ノ見解デアルト思フ

奢侈費ニ至テハ實際ノ占有者ニ同ジク之ヲ償還セシムル權利ハナイ唯物ヲ損  
傷スルコトナクシテ原狀ニ復スルコトヲ得ル權利アルノミデアリマス  
是マデハ留置權者ノ權利ヲ説明シマシタガ是ヨリ留置權者ノ義務ニ論及シマ  
ス

第一 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スル義務ヲ負フ  
者デアアル抑モ留置權者ハ自己ノ利益ニ於テ他人ノ所有物ヲ占有スル者デアラ  
辨濟ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ返還セキバナラス地位ニ居ル者デアリマス即チ

090  
1902  
3-1-5

場合ニ其償還ニ必要ナルダケノ金額ヲ調フルコトハ場合ニ依ラハ甚ダ迷滅ナ  
コトデアル故ニ法律ハ所有者ノ選擇ニ從テ實際ニ支出シタ費用カ又ハ増價額  
ヲ償還スルコトヲ得ルモノトシテ實際少イ方ヲ償還スレバ足レリトシテアル、  
而モ尙ホ其請求ニ因テ裁判所ハ之ニ相當ノ猶豫ヲ許與スルコトヲ得ルモノト  
シテアリマス、留置権者ハ善意デアルカ惡意デアルカト云フコトハ學說ニ任シ  
テ法律上ハ此最後ノ點ニ付テ惡意ノ占有者ト同一ニ扱テ居ル又現ニ他人ノ物  
タルコトヲ知ル以上ハ至當ノ見解デアルト思フ、  
奢侈費ニ至テハ實際ノ占有者ニ同ジク之ヲ償還セシムル權利ハナク、唯物ヲ損  
傷スルコトナクシテ原狀ニ復スルコトヲ得ル權利アルノミデアリマス、  
是マデハ留置権者ノ權利ヲ説明シマシタガ是ヨリ留置権者ノ義務ニ論及シマ  
ス、  
第一留置権者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スル義務ヲ負フ  
者デアル、抑モ留置権者ハ自己ノ利益ニ於テ他人ノ所有物ヲ占有スル者デア  
ルヲ辨濟ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ返還セキバナラス地位ニ居ル者デアリマス、即チ

民法物權 留置權ノ效力

物ノ引渡ヲ爲ス債務ヲ負フ者デアルニ依テ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ保存セキバナラヌ譯デアリマヌ(第二九八條第一項)而シテ是ハ債權ノ總則タル第四百條ノ適用デアルト思ヒマヌ

善良ナル管理者ノ注意トハ一ノ抽象的標準ヲ示シタモノデアアル、即チ茲ニ世間一般ノ者ガ相當ト認ムル程度ニマデ注意ヲ用フル管理者アリト假定シテ其者ノ爲スベキ注意ヲ謂フモノデアアル、此標準ニ對スル所ノ標準ハ主觀的ニ管理者其者ガ自己ノ財産ヲ管理スルニ當テ日常用フル所ノ注意デアアルガ法律ハ此程度ノ注意ヲ以テ足レリトシナイ、例ヘバ無償ニテ寄託ヲ受ケタ者ノ如キハ他人ノ利益ノ爲メニ保管ヲ爲ス者デアアルガ故ニ受託者其人ガ日常自己ノ財産ヲ管理スルニ當テ用フル以上ノ注意ヲ求ムルコトヲ得ベキデナイ(第六五九條)留置權者ハ之ニ反シテ使用收益ノ權ハ有セザレドモ自己ノ利益ノ爲メニ留置物ヲ占有スル者デアアルカ故ニ一層重キ責任ヲ負ハシタ譯デアアル

第二 留置權者ハ留置物ヲ使用又ハ收益スルコトヲ得ナイ、之ヲ處分スルコトヲ得ザルハ言フヲ埃タナイコトデアアル、唯辨濟ヲ受タルマデ其占有ヲ繼續スル

權利ヲ有スルマデデアアル、何トナレバ前ニ再三述べタル如ク留置權ノ目的ハ留置物ノ占有ニ因テ間接ニ辨濟ヲ促スニ止マルモノデアアル、但留置權者ハ債務者ノ承諾アルトキハ留置物ヲ使用スルコトモ貸貸スルコトモ亦擔保ニ供スルコトモ得ル者デアアル、其承諾ナキ限ハ一切此等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ナイ、唯留置物ノ保存ニ必要ナル使用ハ之ヲ爲スコトヲ妨グヌマデアアル(第二九八條第二項)茲ニ保存ニ必要ナル使用ト云ヘバ例ヘバ乘馬ノ如キモノデアアレバ時時之ニ乘テ運動スルト云フ如キヲ謂フデアアル、不動産ニ付テ留置權ノ適用ヲ見ルコトハ甚ダ稀デアアルガ必ズシモノイトハ言ヘナイ、例ヘバ家屋ヲ例ニ取テ言ヘバ短キ期間ヲ以テ之ヲ貸貸スルコトノ如キハ場合ニ依テハ保存ニ必要ナル使用デアアル、此等ハ事實問題ニ歸スルト思ヒマヌ

留置權者ニ於テ若シ右ニ述べタル二ツノ義務ニ背イタトキハ、即チ善良ナル管理人ノ注意ヲ缺クカ又ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ヲ利用シタトキハ其制裁トシテ債務者ハ普通一般ノ原則ニ從ヒ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ル外ニ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ル(第二九八條第三項)是ハ民法第五百四十一

條ニ規定スル所ノ債務ノ不履行ニ因ル契約ノ解除權ト同一ノ趣意ニ出デタモ  
 ト考ヘマス、即チ留置權者ガ留置權ノ目的ヲ脱出シタル行為ヲ爲シタモノデ  
 アル故ニ最早留置權ヲ存続セシムル理由ガナイ、法律ハ損害賠償ノ如キ不確實  
 ナル救済ヲ與フルニ止メズシテ留置權ヲ消滅セシムルコトヲ許シタモノデア  
 ル、此制裁アル以上ハ留置權者ガ不法ニ爲シタル貸貸其他ノ法律行為ハ一般ノ  
 原則トシテ無効ナルコトハ言フヲ埃タナイコトデアアル、  
 留置權ノ效力ニ付イテ尙ホ一ツ説明ヲ要スルコトガアル、其レハ留置權ハ債權ノ  
 消滅時効ノ進行ヲ妨グザルコトデアアル、(第三〇〇條)即チ留置權者ニ於テ留置物  
 ヲ占有スルコトハ債權ノ消滅時効ヲ中斷スルモノデナイ、其理由ハ留置權ナル  
 モノハ唯債權ニ從タルモノデアアル、債權ノ擔保デアアル間接ニ其辨濟ヲ促ス方法  
 ニ過ギナイ、故ニ其行使タルヤ債權其物ノ行使トハ別ノコトデアアル、換言スレバ  
 辨濟ノ請求其他ノ執行行為ト同一ニ視ルベキモノデナイ、是ハ留置權ノ性質上  
 當然言フヲ埃タナイコトト考ヘマス、ケレドモ民法ニ於テ特ニ此事ヲ明示シタ  
 ル所以ハ或ハ留置權ノ行使ヲ以テ暗黙ノ請求又ハ承認ト解スル者ガアルヤモ

洞ラレスガ故デアリマス、現ニ此見解ニ基イテ反對主義ヲ採ツタ立法例モ尠ク  
 ナイ、舊民法ノ如キハ即チ其一例デアアル、故ニ新法典ハ此ニ右ノ規定ヲ置イテ時  
 效中斷ノ原因ハ第四百四十七條ニ掲ゲタルモノニ限ルコトヲ明確ニシタ譯デア  
 リマス

### 第三節 留置權ノ消滅

留置權ハ他ノ物權ニ同ジク其目的物ノ滅失ニ因テ消滅スルコト又其權利ノ拋  
 棄ニ因テ消滅スルコトハ當然デアアル、後ニ消滅ノ一原由トシテ示スベキ占有ノ  
 喪失ハ留置權者ノ任意ニ出デタ場合ニハ留置權ノ拋棄ト視ルベキモノデアアル、  
 又他ノ擔保權ニ同ジク其擔保スル所ノ主タル債權ノ消滅ニ因テ消滅スルコト  
 ハ言フ埃タス、例ヘバ辨濟ニ因テ消滅スル如キハ其一例デアアル、是ハ擔保タル性  
 質上ヨリ當然來ルコトデアリマス、  
 此他留置權ニ特別ナル消滅ノ原因ガ三ツアル、  
 第一 占有ノ喪失、是マデニ説明シタル所ニ據テ明カナル如ク留置權ノ基礎

ト爲ル所ノ要素ハ占有ノ事實デアル故ニ一朝占有ヲ失フニ至ラバ留置權ノ消滅スベキハ當然ノコトデアリマス、唯之ニ對スル一ノ例外ハ債務者ノ承諾ヲ得テ貸貸又ハ質入ヲ爲シタ場合デアル(第三〇二條此場合ニ於テハ占有ヲ喪失シタルモノト看ルヨリモ專ラ質借人又ハ質權者ニ依テ占有ヲ爲スモノ即チ質借人又ハ質權者ハ留置權者ノ代理占有者ト看ルガ正シイカト思フ、即チ嚴格ニ言ヘバ第三百二條ノ規定ハ全ク不必要デアルト考ヘマス、唯立法者ハ此最後ノ點ニ付イテ或ハ疑議ノ生ゼンコトヲ慮テ之ヲ置クニ至ラタモノデアルト考ヘル

第二 債務者ノ承諾ヲ經ズシテ使用收益ヲ爲シ又ハ擔保ニ供シタル場合或ハ善良ナル管理人ノ注意ヲ怠ラガ爲メニ債務者ノ請求ニ因テ留置權ノ消滅スル場合此場合ニ於ケル留置權消滅ノ原因ハ即チ義務ニ背イタコトニ基ク債務者ノ請求デアル

第三 相當ノ擔保ノ提供即チ債務者ハ何時ニテモ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ル、此場合ニハ其請求ニ因テ留置權ハ消滅スルコトト爲ル(第三〇一條是ハ一般ノ原則ヨリ言ヘバ一ノ異例デアアル、即チ債務者一已

相續權ノ害セラレサルコトヲ規定シタレトモ此規定ノ精神ハ第八百三十九條ノ裏面ノ規定ニ依リテ破却セラレタルニ非サルナキヤノ疑ヲ生セン、即チ被相續人カ姉又ハ妹ノ爲メニ培養子ヲ爲シタリトモ弟又ハ姉カ家督相續人タルコトハ異ナルコトナケレトモ第八百三十九條ノ規定ニテハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニハ男子ヲ養子ト爲スコトハ許サレサレトモ法定ノ推定家督相續人カ女子タル場合ニ於テ男子タルト女子タルト間ハ養子ト爲スコトヲ得ルモノニシテ其女子ヲ養子ト爲シタル場合ニ於テハ第九百七十條第二項ノ規定ニ依リテ養子タル女子ハ養子ノ爲メニ相續權ヲ害セララルコトナシト雖モ男子ヲ養子ト爲シタル場合ニ於テハ其嫡出子タル身分ヲ取得シタルコトハ實子タル女子ヨリ遲シト雖モ同シク嫡出子タル男女子ノ間ニ在リテハ右第二項ノ規定ノ適用ヲ受クルモノニ非ス、此場合ニ於テハ第一項第二號ノ規定ニ依リテ養子タル男子カ相續ニ付キ先順位ヲ得ルカ故ニ此養子ノ爲メニ實子タル女子ハ相續權ヲ害セララルニ至ル然レトモ法定ノ推定家督相續人カ女子ナル場合ニ於テハ之ヲシテ相續セシムルコトハ通常人ノ欲セザル所ニシテ亦

法律モ女子ハ男子ノ如ク戸主タルニ適當ナラサルモノト認ムル所一ニシテ足ラス例ヘハ女戸主カ隱居ヲ爲ス場合第七五條及ヒ女戸主ノ入夫婚姻ノ場合(第七三六條)ノ如キ即チ是ナリ女子カ法定ノ推定家督相續人タルトキハ多クハ之ニ培養子ヲ爲シテ其養子ヲシテ家督相續セシムルカ女子ヲシテ家督相續セシムルトキハ入夫婚姻ヲ爲シテ入夫ユ戸主權ヲ讓ルカ女子ヲシテ永ク戸主タラシムルコトハ我邦ノ人情ニ適セサルカ故ニ本法ハ全體ニ通シテ力ヲ男子ヲシテ戸主タラシムルノ主義ヲ採リタルヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ女子ノ相續權ハ侵害セラレルモ問ハサルモノト爲シタルナリ

○第四例外 承祖相續 第九百七十四條 第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百七十條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル(舊民法財産取得編第二九五條第二項)

此第四例外ハ佛蘭西ニテ *Représentation* ト謂ヒ(佛國民法第七三九條乃至第七四四

條) 佛國民法第一九二四條我邦ニ於テ從來嫡孫承祖ト稱シ學者ノ所謂代位相續、代承相續、代襲相續、又ハ代表相續ト稱スルモノ即チ是ナリ代承相續トハ家督相續開始ノ際第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リ家督相續ヲ爲スヘキ順位ニ在ル者カ死亡スルカ其他廢除(第九七五條乃至第九七八條)本家相續(第七四四條)第一項(離籍第七四四條)第二項(第七五〇條)第二項又ハ缺格(第九六九條)ニ因リ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ縱令自己ノ順位ニ次ク弟妹等存スルトモ其者ニ若シ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬中第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ從ヒ第一ノ順位ニ在ル者相續ヲ爲スヲ謂フ第九百七十條第一項第一號ノ規定ニ從ヘハ被相續人ニ長男ト次男トアルトキ相續開始前ニ長男死亡スルカ又ハ右ニ舉ケタルカ如キ事由アリテ相續權ヲ失ヒタルトキハ長男ニ直系卑屬アルトモ其直系卑屬(子)ハ被相續人ノ孫ニシテ二等ニシテ次男ハ一等ナル故ニ次男家督相續人ト爲ルヘケレトモ此次男ニ相續權ヲ與ヘスシテ長男ノ直系卑屬ヲ以テ直チニ被相續人ノ家督相續人ト爲スカ故ニ本條ノ規定ハ第九百七十條第一項第一號ノ規定ニ對スル例外タルナリ蓋シ此例外規定ヲ設ケ



タル所以ハ嫡孫承祖ナルモノハ古來我邦ニ於テ認メタル慣例タルノミナラス  
 當然家督相續ヲ爲スヘキ者カ死亡セス又ハ相續權ヲ失ハスシテ相續セハ其直  
 系卑屬カ相續ヲ爲スヘキ當然ノ順序ニ在リタルニ偶然ノ事實ニ因リテ其相續  
 權ヲ失ヒ死亡者失權者ノ弟姉妹カ相續ヲ爲シ爲メニ家督相續ハ爾後永ク其者  
 ノ子孫ニ屬スヘキモノト爲スハ甚タ不條理ナルヲ以テナリ舊民法ノ規定舊民  
 法財產取得編第二九五條第二項ニ從ヘハ此例外ノ規定ヲ家督相續人タルヘキ  
 者カ死亡シタルカ又ハ廢除セラレタル場合ニノミ適用シ其他ノ事由ニ因リテ  
 相續權ヲ失ヒタル場合ニハ適用セスト雖モ此ノ如クスルトキハ父ノ罪ノ結果  
 ヲ罪ナキ其子ニ負ハシムルト一般ニシテ甚タ不條理ナルヲ以テ本法ニ於テハ  
 舊民法ノ如キ區別ヲ爲サザリシナリ  
 代承相續ノ場合ニ於テモ相續ニ付キ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ普通  
 相續ノ場合ト同シク第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ從ヒテ優先ノ  
 順位ニ在ル者カ相續スルモノトス  
 以上ハ第九百七十條ニ對スル例外規定ナリ

○法定ノ推定家督相續人ノ廢除 第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ  
 付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請  
 求スルコトヲ得

- 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
  - 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト
  - 三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
  - 四 浪費者トシテ華禁治産ノ宣告ヲ受ケ改後ノ望ナキコト
- 此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求ス  
 ルコトヲ得舊民法財產取得編第二九六條乃至第二九八條第一項  
 法定ノ推定家督相續人ノ廢除トハ從來廢嫡ト稱セシモノニシテ相續開始セハ  
 法律上當然家督ヲ相續スヘキ者ニ對シ被相續人カ法定ノ原因アル場合ニ於テ  
 裁判上其相續權ヲ剝奪スルヲ謂フ而シテ此推定ノ相續人ノ廢除ニ付テハ四箇  
 ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
- (二) 廢除ノ請求權ヲ有スル者ハ被相續人ニ限ル 第九百六十九條ノ規定ニ依

リ家督相續人ヲ相續ニ付テノ缺格者ト宣言セシムルニ法律上制限ナキカ故ニ  
 利害關係人ハ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ相續人ノ廢除ハ被相續人ノ  
 外請求スルコトヲ得ス之ヲ被相續人一人ニ限リタルハ蓋シ廢嫡ノ原因ハ被相  
 續人又ハ其家ニ關スルモノナレハ相續人カ家督ヲ承繼スルニ適當ナルヤ否ヤ  
 ヲ知ルハ被相續人ニ限ル縱シ他ノ者ニシテ相續人ニ廢除ノ原因アルコトヲ知  
 ルトモ被相續人カ之ヲ默認セル場合ニ他ノ者カ内事ニ干渉スルコトハ許スヘ  
 キモノニ非サルヲ以テナリ

(二) 廢除セラルルハ推定家督相續人ハ、ミ、限ル 曩ニ家督相續人ニハ五種ア  
 ルコトヲ叙述シタルカ相續人ノ廢除ハ五種ノ中法定ノ推定家督相續人ニ限ル  
 何トナレハ家督相續人カ指定ニ因ルモノナランカ被相續人ニ於テ之ヲ廢除セ  
 ント欲セハ任意ニ其指定ヲ取消スコトヲ得ヘシ(第九七九條第二項其他ノ家督  
 相續人ニ付テハ選定ニ一任シテ可ナルヘシ殊ニ第一種選定家督相續人第九八  
 二條ニ付テハ第九百八十三條ノ規定アルヲ以テ之ヲ廢除セサルヘカラスルカ  
 如キ原因アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲ササルコ

トヲ得ヘク又第二種選定家督相續人ニ付テハ不適當ナル者ハ親族會ニ於テ最  
 初ヨリ選定セサルコトヲ得ヘケレハ第一種家督相續人ノ外ハ廢除ノ規定ヲ設  
 タル必要アラサルナリ

(三) 廢除ハ確定判決ニ依ラサルヘカラス 民法實施前ニ在リテハ廢嫡ハ訴ヲ  
 以テスルニ非スシテ行政官廳ニ顯出テ其許可ヲ受ケテ爲スモノナリシカ故ニ  
 顯書ノ體裁宜キヲ得ルニ於テハ別ニ利害關係人ヲ召出シ事實ノ調査ヲ爲スコ  
 トナクシテ許可セラレタリト雖モ廢嫡ハ家督相續人ノ利害ニ大ナル關係ヲ有  
 スルモノナレハ其利益ヲ保護スル爲メニハ最モ慎重ニ爲ササルヘカラス而シ  
 テ親族編相續編中ノ事項中ニハ非訟事件手續法ノ手續ニ依ルモノアリト雖モ  
 廢嫡ハ一身一家ニ重大ナル關係ヲ有スルカ故ニ訴ノ方法ヲ以テ被相續人ヨリ  
 ヲ請求シ裁判所ノ判決ヲ以テ確定スヘキモノト爲シタルナリ

推定ノ相續人廢除ノ訴ノ管轄ハ被相續人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ其死亡  
 ノ時ニ之ヲ有シタル地ノ地方裁判所ノ專屬ナリ人事訴訟手續法第三三條  
 廢嫡ノ訴ヲ受クヘキ家督相續人カ無能力者ナルトキハ其法定代理人ハ多クハ

被相續人ニシテ原告ナレハ被告タル家督相續人ヲ代表セシムヘキモノニ非サルヲ以テ人事訴訟手續法第三十九條第一項及ヒ第三條ノ規定ニ依リ受訴裁判所ノ裁判長ハ辯護士ヲ訴訟代理人ニ選任ス

(四)廢除ハ法定ノ原因ニ依ラサルヘカラス 法律ハ廢除ノ原因トシテ本條第一項ニ第一號乃至第四號ノ事由ヲ列記シタリト雖モ其原因ハ此第四號ニ限ラス此他尙ホ正當ノ事由アルトキハ廢除ヲ請求スルコトヲ得ルモノト爲セリ蓋シ廢除ノ原因ハ法律カ之ヲ豫定スルトキハ裁判官カ濫ニ其請求ヲ容ルルコトヲ豫防シ能ク相續人ノ權利ヲ保護スヘシト雖モ豫メ廢除ノ事由ヲ制限スルトキハ事實上廢除ノ請求ヲ許スヘキ正當ナル事由アリトモ裁判官ハ如何トモ爲スコト能ハサルカ故ニ法律カ豫定シタル外尙ホ正當ナル事由アルトキハ廢除ヲ爲スヲ許スコトトセリ但法律カ列舉シタル場合以外ノ事由ニ基キテ被相續人カ廢除ノ請求ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト爲セリ 法律カ定メタル廢除ヲ許ス場合ハ左ノ如シ  
第一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

家督相續人ニ就テ言ヘハ自己ノ専ラ尊敬セサルヘカラサル父祖ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加フルカ如キ例ヘハ被相續人タル父母又ハ祖父父母ニ對シテ毆打ヲ爲シ罵詈惡口ヲ爲スカ如キハ倫理ニ悖リ風教ニ害アリ又被相續人ニ就テ言ヘハ相續人ニハ自己ノ財產地位等ヲ讓ルヘキモノナルニ虐待ヲ受ケ重大ナル侮辱ヲ加ヘラレナカラ此者ニ其家督ヲ讓ルハ感情ニ於テ許ササル所ナルヲ以テ此ノ如キ相續人ハ廢除スルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ如何ナル事實カ虐待ナルカ又重大ナル侮辱ナルカハ一ニ裁判官ノ査定ニ依ラサルヘカラス

第二 確定家督相續人カ疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家督ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

從來ニ於テモ病氣ニテ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ如キ者ノ廢嫡ヲ許シタルノミナラス戸主タル者ニテモ疾病ニ因リテ家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ隱居ヲ爲スニ付テノ法定ノ條件ヲ具備セサルニ拘ハラズ隱居ヲ爲スコトヲ許ス(第七五三條)カ故ニ戸主タル被相續人ノ地位ヲ承繼スヘキ家督相續人ニ

シテ疾病ニ因リテ家督ヲ執ルニ堪ヘサルトキハ之カ廢除ヲ許スハ固ヨリ當然ナリ而シテ家督相續人カ家督ヲ執ルニ堪ヘサルコトハ唯リ疾病ニ限ラス其他身體又ハ精神ノ狀況ニシテ家督ヲ執ルニ堪ヘサル者例ヘハ傷疾ニ因リ又ハ天性ノ不具ニ因リ身體ノ自由ヲ有セサル者性來白痴瘋癲等ノ如キモ家督ヲ執ルニ堪ヘサルトキハ之カ廢除ヲ許スハ亦當然ナリ

舊民法財產取得編第二九七條第二號ハ民事上禁止產及ヒ準禁止產ヲ以テ廢除ノ法定ノ原因ト爲シタリト雖モ此等ノ宣告ヲ受ケタル者ハ猶ホ能ク法定代理人第八條又ハ保佐人第一一條ヲ保護ヲ得テ家督相續人ト爲リ家督ヲ執ルコトヲ得ヘキカ故ニ之ヲ廢嫡ノ法定ノ原因ト認ムルコトハ妥當ナラサルヲ以テ之ヲ省キタリ  
 第三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキハ家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪トハ如何ナルモノヲ指スカハ全ク事實問題ニ屬スト雖モ盜罪詐欺取財罪等所謂破廉恥罪ノ如キハ大概此中ニ包含スト謂フコトヲ得ヘシ而シテ家族制度ヲ執ル我邦ニ於テハ古來ヨリ家ヲ重スルカ故ニ家名

ヲ汚ス所爲ヲ行ヒタルニ因リテ刑ニ處セラレタルカ如キ者ヲシテ家督相續人ト爲ストキハ到底家名ヲ維持シ家產ヲ保有セシムルニ足ラサルモノト認メザルヲ得ス是ヲ以テ此ノ如キ家督相續人ハ廢除スルコトヲ得ルモノト爲シタリ  
 本號ノ規定ノ適用ヲ受クルニハ家督相續人カ單ニ家名ヲ汚スヘキ罪ヲ犯シタルヲ以テ足レリトモ尙ホ之カ爲メニ刑ニ處セラレタルコトヲ要ス而シテ又重罪輕罪ノ如キ重キ罪ヲ犯シ相當ノ刑ニ處セラレタル場合ニ限ラズ違警罪ヲ犯シ拘留科料ノ刑ニ處セラレタルトキト雖モ其罪ニシテ家名ヲ汚スモノナルトキ例ヘハ身分アル家督相續人ニシテ密ニ淫賣ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テハ之カ適用ヲ受クルモノトス  
 茲ニ注意セサルヘカラサルハ或犯罪カ或者ノ爲メニハ家名ヲ汚辱スルモノタルモ他ノ者ノ爲メニハ然ラサルコトアリ例ヘハ被相續人カ屢破廉恥罪ヲ犯シ既ニ其家名ヲ汚辱セル場合ニ於テハ其家督相續人ニシテ亦之ニ類スルカ如キ罪ヲ犯シタリトモ其家名ヲ汚スト謂フコトヲ得サルヘシ之ニ反シテ社會ニ於テ上流ノ地位ヲ占メ名譽ヲ尊ヒ德義ヲ重スル者ノ家ニ於テハ破廉恥罪ノ如キ

ハ縱令輕キモノタリトモ嫌疑スルカ故ニ或犯罪ニシテ家名ヲ汚スヤ否ヤハ各人同一ナルモノニ非スシテ是レ亦事實問題ニ屬シ裁判官ノ査定ニ依ルモノトス

第四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ、改悛ノ望ナキトキ、  
 浪費者トハ濫ニ金錢ヲ費消スル者ニシテ此ノ如キ者ニ家督相續ヲ爲サシメ家政ヲ一任スルトキハ竟ニ家産ヲ蕩盡スルニ至ルヘケレハ一家維持ノ爲メ之ヲ廢除スルハ固ヨリ當然ナリ然レトモ推定家督相續人ヲ浪費者トシテ廢除スルニハ二箇ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一) 推定ノ家督相續人カ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルコト、推定ノ家督相續人カ實際浪費者ナリト雖モ準禁治産ノ宣告ヲ受ケサルトキハ被相續人ニ於テ浪費ノ程度未タ甚シカラス之ニ保佐人ヲ附シ第一一條ヲ保護スルノ必要ナシト認メタルモノト看ルコトヲ得ヘケレハ法律ハ未タ此ノ如キ者ニ廢除ノ原因アルモノト爲サス然レトモ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ至リテハ浪費ノ程度甚シキモノト看ルコトヲ得ヘキヲ以テ此宣告ヲ受ケタルコトヲ以テ一條條件ト

爲シタリ

(二) 改悛ノ望ナキコト、縱令推定家督相續人カ浪費者ニシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタリトモ之カ爲メ此者ヲ直チニ廢除スルコトヲ得ルモノニ非ス改悛ノ見込ナキトキニ非サレハ廢除ヲ爲スコトヲ得ス而シテ推定家督相續人カ一時酒色ニ耽リテ浪費ヲ爲スモ自ラ悟リ又ハ父兄ノ訓戒ニ依リ改悛スルコト少シトセス而シテ此ノ如キ者ニ對シテハ廢除ヲ爲スノ必要ナキカ故ニ改悛ノ望ナキ場合ニ限リ廢除ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ其如何ナル者カ改悛ノ見込ナキ者ナルヤ否ヤハ事實問題ニ屬セリ

第五 親族會カ同意スル正當ノ事由アルトキ、  
 法律ハ右第一乃至第四ノ如ク推定家督相續人ヲ廢除スルニ足ル原因ヲ列舉シタリト雖モ以上ノ原因ノミニテハ時トシテ戸主ト爲ルニ不適當ナル者カ家督相續人ト爲ル場合ノ生スルコトアルヲ慮リ尙ホ右ノ外事實ニ於テ正當ト看ララル場合ニ推定家督相續人ヲ廢除スルコトヲ許セリ而シテ如何ナル事由カ正當ナルヤハ事實問題ニ屬スト雖モ今之カ一例ヲ舉クレハ被相續人ハ老衰シテ

ルモ家産ニ餘裕ナク又推定ノ家督相續人ハ年少ニシテ家督ヲ相續スルトモ自己ノ勞務ニ依リテ家族ヲ扶養シ一家ヲ維持スルコトヲ得サルヲ以テ他ヨリ其勞務ニ依リテ家族ヲ扶養スルコトヲ得ル者ヲ養子ト爲サント欲スルトキ親族會ニ於テ之ニ同意ヲ爲シタル場合ノ如キ即チ是ナリ

○遺言ニ因ル廢除 第九百七十六條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス(舊民法財産取得編第二九八條第一項)

家督相續人ノ廢除ハ相續開始ノ時始メテ必要ナルカ故ニ被相續人カ生前豫メ之ヲ爲サスシテ其死ニ瀕シ始メテ廢除ヲ爲サント欲スルコトアリ而シテ相續人ノ廢除ヲ爲スニハ必ス裁判所ニ請求ヲ爲スコトヲ要スルニ生前其請求ヲ爲スノ暇ナキコト尠少ナラス是レ猶ホ生前豫メ養子ヲ爲サスシテ其死亡ニ際シ家督相續ノ必要上養子ヲ爲サント欲スルモ其手續ヲ爲スノ暇ナキヲ以テ遺言ヲ以テ養子ヲ爲スコトヲ得ル(第八四八條)一般ニシテ遺言ヲ以テ相續人ノ廢

除ヲ爲スコトヲ許ササルハカラサル必要アリ然レトモ舊民法ノ如ク單ニ遺言ヲ以テ廢嫡ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定スルニ止マルトキハ遺言カ效力ヲ生スルト同時ニ廢嫡ノ效果ヲ生スルコトト爲ルヘク然ルニ廢嫡ハ一身一家ニ重大ナル關係ヲ生スルコトハ遺言ヲ以テスル場合ニ於テモ毫モ異ナルコトナクレハ遺言ノ場合ニ於テモ同シク裁判所ニ請求ヲ爲ササルヘカラサルモノト爲セリ然レトモ遺言カ效力ヲ生スルトキハ即チ被相續人死亡ノ時ニシテ被相續人ハ自ラ之カ請求ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ此場合ニ於テハ遺言執行者カ被相續人死亡ノ後遲滞ナク裁判所ニ請求ヲ爲スヘキモノト爲セリ第千百八條ノ規定ニ依リ遺言者ハ遺言ヲ以テ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ之ヲ選任ス(第一一一條)

遺言ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ效力ヲ生スルヲ通例トスレトモ若シ遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件カ被相續人死亡ノ後ニ成就シタルトキハ條件成就ノ時ヨリ效力ヲ生スルモノニシテ(第一〇八七條)普通ノ場合即チ遺言カ

無條件ニテ效力ヲ發生スル場合ニ於テモ之カ遺言ヲ執行スルニ當リ遺言書ノ  
 發見及ヒ之ヲ檢認ノ請求立會開封其他遺言執行者ノ選任及ヒ其承諾等ヲ(第一  
 一〇六條以下要スルコトアラテ之カ爲メ多少ノ時日ヲ要スルカ故ニ遺言カ效  
 力ヲ生スルヤ直チニ請求スルコトヲ得サルヲ以テ法律ハ別ニ請求ニ付キ期間  
 ヲ定メスシテ遲滯ナクト言ヘル所以ナリ遺言カ條件附ナル場合ノ例ヲ舉ケン  
 ニ被相續人ニ推定家督相續人アリテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタル放蕩者ナルモ  
 他ニ實子ナキカ故ニ之ヲ廢除シテ他ヨリ養子ヲ爲スニ忍ヒサルヲ以テ廢除ノ  
 請求ヲ爲ササリシモ其死亡ニ際シ妻ノ懷胎シタルヨリ其子ニシテ男子タラン  
 ニハ推定ノ家督相續人ヲ廢除シ遺腹ノ子ニ相續セシメント欲シタル場合ニ於  
 テ被相續人死亡ノ發男子生レタルトキハ停止條件茲ニ成就シタルヲ以テ遺言  
 執行者ハ男子ノ生レタル時ヨリ遲滯ナク廢除ノ請求ヲ爲ササルヘカラス  
 右孰レノ場合ニ於テモ裁判所カ廢除ノ判決ヲ爲スハ常ニ相續開始ノ後ナルカ  
 故ニ廢除ニシテ裁判確定ノ日ヨリ始メテ效力ヲ生スルモノト爲ストキハ裁判  
 ニ依リテ廢除セラレタル相續人ハ一旦正當ニ相續ヲ爲シ裁判ニ依リテ其資格

第二 支拂ニ對スル擔保ノ請求權

(一) 爲替手形ノ引受拒絶ヨリ生スル擔保請求權第四七四條第四七六條  
 (二) 爲替手形ノ引受人及ヒ約束手形ノ振出人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ  
 生スル擔保請求權第四八〇條第五二九條  
 以上列記ノ權利ハ皆署名ヲ要件トスル特定ノ行爲ニ基キテ生シ特定セル金額  
 ノ支拂又ハ其支拂ニ對スル擔保ノ請求ヲ實質トスルモノニシテ所謂手形上ノ  
 權利ト稱セラルルモノナリ我手形法ニ於テ或ハ手形上ノ權利ト謂ヒ或ハ手形  
 ヲリ生シタル債權ト謂ヒ或ハ手形ヨリ生シタル債務ト謂フハ皆如上ノ權利若  
 タハ之ニ對スル債務ヲ指示スルモノニシテ此種ノ權利ハ民事訴訟法第四百九  
 十四條所謂手形訴訟ニ由リテ主張スルコトヲ得ル權利ナリ  
 此他尙ホ手形法ニ認メラルル權利アリト雖モ是レ或ハ手形ノ署名者ニ對スル  
 權利ニ非サルカ又ハ手形ノ署名者ニ對スル權利ナルモ其實質ヲ異ニスルモノ  
 ナルカ又ハ手形上ノ權利カ消滅シタルトキニ生スル所ノ權利ニシテ共ニ手形  
 上ノ權利ト稱スヘカラサルモノタリ例ヘハ復本又ハ勝本ノ所持人カ他ノ復本

又ハ原本ノ保管者ニ對シテ之カ返還ヲ請求スルハ權(第五二)條第二項第五三條第二項支拂ヲ爲ス者カ其受領ノ旨ヲ記載シタル手形若クハ賸本ヲ交付スル請求スルノ權(第四八三條第四八四條第五二九條第五三七條)償還金額ノ辨濟者カ手形拒絶證書償還計算書ノ交付ヲ請求スルノ權(第四九五條第五二九條第五三七條)爲替手形ノ所持人カ賸本ノ交付ヲ請求スルノ權(第五一八條)不當利得ニ基キ振出人又ハ引受人ニ對シテ償還ヲ請求スルノ權(第四四四條)等是ナリ

第二 手形上ノ債務ハ原因ヲ必要トセサルモノナリ。普通一般ノ債務ニ在リテハ其債務ヲ發生セシムルニ至リタル原因即チ何故ニ債務ヲ負擔シタルカノ理由ハ其債務ノ實體ヲ爲シ若シ其原因ヲ缺タカ又ハ其原因カ不法若クハ錯誤ニ出テタルモノナルニ於テハ其欠缺不法若クハ錯誤ハ直チニ其債務ニ影響ヲ及ホシ之カ爲メニ債務不成立ノ結果ヲ惹起スモノタリ之ニ反シテ手形債務ニ在リテハ原因ノ有無ハ毫モ債務ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナク其債務關係ハ全ク原因關係ヲ離レテ成存スルモノナリ勿論手形債務ト雖モ何故ニ其債務ヲ負ヘルカノ理由ハ必ス存在スルナリ何人ト雖モ何等ノ理由ナクシテ漫ニ債務

ヲ負擔スルモノニ非ス然レトモ其理由ハ手形以外ノ關係ニ於テハ其存在ヲ認ムヘキモ手形關係ノ上ヨリ觀察スルトキハ手形債務ハ此理由ヲ其實體トシテ成立スルモノニ非ス手形上ニ於テハ手形債務ノ發生ニ手形行爲ノ存在ヲ認ムルノミニテ手形ヲ離レテ存在スル債務原因ノ問題ハ其間フ所ニ非ス手形行爲ハ手形債務ヲ發生セシムルニ必要ナルト同時ニ其債務ハ此手形行爲ヲ唯一ノ要素トシテ成立シ一旦自己ノ自由意思ニ基キテ此行爲ヲ爲シタル者ハ其行爲自體ノ結果トシテ當然手形上ノ債務ヲ負擔スルナリ故ニ手形債務ノ成否如何ハ一ニ債務者タラントスル者カ任意ニ手形行爲ヲ爲シタルヤ否ヤノ事實ニ依リテ決定セラルヘクシテ債務原因ノ存否ニ依リテ左右セラルヘキニ非ス若シ強ヒテ手形上ノ關係ニ於テ其債務發生ノ原因ハ何レニ在リヤト問ハハ手形ニ特定ノ行爲ヲ爲シ之ニ署名シタルカ爲メナリト云フノ外ナク尙ホ進ミテ其手形行爲ヲ爲シタル理由如何ト問ハハ是レ手形法ニ依リテ效力ヲ付セラレザル理由ニシテ法律上ノ理由ニ非ス即チ手形債務ノ原因ニ非スト答フレハ足レリ貴通原因ト稱セラレルモノハ債務ヲ負擔スルニ至リタル法律上ノ理由ヲ意味シ



廣ク何故ニ債務ヲ負ヘルカノ理由ヲ總稱スルモノニ非ス其理由ニシテ法律カ  
之ニ效力ヲ付與セラルモノハ學者ノ認メテ債務ノ原因ト稱スルモノニ非ス此  
意味ニ於テ所謂何故ニ手形行爲ヲ爲シタルカノ理由ハ手形法上到底原因ト稱  
シ得ヘカラサルモノナリ

第三 手形上ノ債務ハ手形記載ノ文言ニ依リテ決定セラルルモノナリ 手形  
記載ノ文言ニ依リテ決定セラルトハ手形上ノ債務者ハ一而ニ於テハ手形記載  
ノ文言以外ニ其責任ヲ負フコトナキヲ意味スルト同時ニ他面ニ於テハ其文言  
カ事實ニ合セス當事者ノ真意ト一致セザルモノアルモ之ニ從ヒテ履行ノ責ニ  
任スヘキコトヲ意味スルナリ(第四三五條)

手形上ノ債務ハ手形行爲ニ因ルニ非サレハ發生スルコトナク手形ヲ離レテ手  
形債務ナシトハ曩ニ詳シタ述ヘタル所ナリ手形債務カ其成立ニ於テ此ノ如キ  
特質ヲ有スルモノナル以上ハ其效力ノ範圍モ亦手形其モノノ上ニ現ハレタル  
文言ニ依リテ限界セラルヘキハ自然ノ理勢ナリ故ニ手形ノ文言以外ニ其責任  
ナキハ別ニ深ク説明ヲ要スルコトナシト雖モ此ノ如ク文言ニ從ヒテゾミ責任

ヲ負擔スルモノトセハ手形記載ノ文言ニ付テハ手形上ノ債務者ハ無限ニ之ニ  
拘束セラルルヤト云フコトカ殊ニ其講究ヲ要スル問題ト爲ルナリ此問題ニ付  
テハ手形ニ記載セラルル事項ヲ分テテ之ヲ論スルヲ便利トス 茲ニ就テ  
手形記載ノ事項ハ之ヲ分テテ三種ト爲スコトヲ得其一ハ手形法カ絕對的ニ其  
記載ヲ必要ト認ムル事項ニシテ其二ハ特ニ法ノ命スル事項ニ非サルモ當事者  
カ之ヲ記載スルトキハ法カ其記載ニ對シテ手形上ノ效力ヲ認ムルモノナリ此  
二種ノ記載事項ニ付テハ當事者ハ手形行爲ヲ爲シタル當時既ニ存在セル手形  
文言竝ニ自己ノ表示シタル文言ニ從ヒテ手形上ノ責任ヲ負擔スヘキナリ例ヘ  
ハ第四百四十五條ノ規定ニ從ヒ一定ノ金額、一定ノ満期日、一定ノ支拂地ヲ記載  
シテ振出サレタル爲替手形ニ裏書ヲ爲シ又ハ引受若クハ保證ヲ爲シタル者ハ  
其文言ニ從ヒ自己ノ裏書又ハ引受若クハ保證ヨリ生スル爲替手形上ノ責任ヲ  
負擔スヘク其他其手形ニ支拂擔當者支拂場所裏書禁止又ハ無擔保ノ裏書等ニ  
關シテ記載アルトキハ是レ亦其文言ノ示ス所ニ從ヒテ其實ニ任スルカ如シ之  
ニ反シテ以上二種以外ノ記載事項即チ手形法ニ何等ノ規定ナキ第三種ノ事項

ニ付テハ之ニ對シテ法ハ手形上ノ效力ヲ認メ居ラサルカ故ニ(第四三九條)經合  
 此種ノ事項カ手形ニ記載セラレタリトスルモ手形上ノ債務者ハ此文言ニ拘束  
 セラルヘキニ非ス其責任ヲ負擔スヘキニ非ザルナリ手形ニ記載セラレタル事  
 項ニシテ手形上ノ效力ヲ生スヘキモノハ所謂手形ノ文言ナリト認メ得ヘシト  
 雖モ手形法上何等ノ效力ヲ生セザル記載事項ハ到底之ヲ認メテ手形ノ文言ナ  
 リト爲スニ由ナキノ結果此種ノ事項ノ記載アルモ其文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ  
 要セストハ第四百三十九條規定ノ解釋ヨリ自然ニ爾ク論結シ得ヘント信ス  
 故ニ第四百三十五條ニハ廣ク其手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フト規定スレト  
 モ其實手形ノ署名者ハ無限ニ手形記載ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負擔スルモノニ  
 非スシテ其文言ハ手形法ニ由リテ規定セラレ效力ヲ認メラルルモノニ限定セ  
 ラレ居ルナリ

此ノ如ク現行法ハ手形ニ記載シ得ヘキ事項ハ總テ之ヲ各本條中ニ網羅スルノ  
 主義ヲ執リタリト雖モ其他ノ事項ニテモ敢テ其記載ヲ絕對的ニ禁止スルノ趣  
 旨ニ非ス之ヲ記載スルモ之カ爲メニ他ノ記載事項ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホ

サシメサルニ止マリ民法其他一般法ニ依ル效果ノ發生ヲ妨ケザルナリ法文ニ  
 モ手形上ノ效力ヲ生セスト規定シ以テ其主意ヲ明カニシ居レリ要スルニ此第  
 四百三十九條ノ規定ハ予置ノ信スル所ニ據レハ一方ニ於テハ本法規定以外ノ  
 記載事項其モノニ手形上ノ效力ヲ認メスシテ以テ此種ノ記載事項ノ爲メニ他  
 ノ手形法上有效ナル記載事項カ其效力ヲ毀滅セラルルカ如キ場合ノ發生ヲ防  
 遏セントシ他方ニ於テハ手形ノ署名者カ手形上ノ責任ニキ債務ノ範圍即  
 チ手形文言ノ限界ヲ定メントスルノ趣旨ニ出テタルモノナリト信スルナリ本  
 條ハ所謂「手形上ノ效力ヲ生セス」ト云フノ文句ニ重キヲ置キテ解釋スヘキモノ  
 トス

手形ノ署名者ハ手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ故ニ手形ノ記載事項カ縱令當  
 事者ノ眞意ニ合セス事實ト一致ヲ缺クモ之ニ署名シタル者ハ其文言通りニ手  
 形上ノ責任ヲ任セザルヘカラス手形以外ノ事由ニ付テハ手形法ハ其主張ヲ許サ  
 ス手形其モノノ上ニ現ハレタル文言カ總テノ手形上ノ債務關係ヲ支配スルナ  
 リ故ニ一旦手形上ノ債務カ成立シタル以上ハ如何ナル場合ニモ其債務者ハ其

文言ニ從ヒテ其債務ヲ履行スヘク債權者ハ一ニ之ニ依リテ其權利ヲ主張シ得ヘキナリ而シテ如何ナル場合ニ手形上ノ債務ノ成立アリヤト云フノ問題ハ變ニ解決シタル所ナルカ故ニ再言スルノ要ナシ唯此文言ニ從ヒテ責任ヲ負フト云フコトニ牽連スル問題ニシテ特ニ茲ニ講究ヲ要スルハ第一變造手形ニ署名シタル場合ニ其署名ノ時期ニ關スル問題ナリ署名者ハ其手形行爲ヲ爲シタル當時ニ於ケル手形ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フヘキモノナルカ故ニ何トナレハ何人ト雖モ手形文言ニ對スル他人ノ變造行爲ニ因リテ其責任ヲ輕重セラルヘキモノニ非サレハナリ手形文言ニ變更ヲ生シタル場合ニ各自ノ手形行爲ハ其變造以前ニ於テ爲サレタルモノナルカ又ハ以後ニ爲サレタルモノナルカノ決定如何ニ依リ其署名者ノ負擔スル債務ノ範圍ニ著シキ相違ヲ生スルナリ而シテ其變造時期ノ不明ナル場合又ハ變造ノ時期明カナリトスルモ手形行爲ニ日附ナキ場合ニハ(白地裏書第四五七條前段)引受(第四六八條第一項)第五〇三條第一項保證(第四九七條)ニ付テハ日附ハ其行爲成立ノ要件ト爲リ居ラサルナリ其署名ハ變造ノ前後何レノ時ニ爲サレタルヤヲ決定スルコト事實上殊ニ困難ナ

リ隨テ何人カ之カ證明ノ責ニ任スヘキヤト云フコトカ問題ト爲ルナリ法ハ此問題ニ對シテ債務者ノ利益ノ爲メニ一ノ推定ヲ設ケ變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定スト規定シタリ第四三七條第二項蓋シ變造ノ起リタル場合ニハ債務者ノ不利益ニ手形文言カ變更セラレルヲ通例トシ債務者ニ之カ立證ノ責任ヲ負ハシムルハ頗ル酷ナルモノアルカ故ニ法ハ先ツ債務者ハ總テ真正ナル手形ニ署名シタルモノナリトノ推定ヲ下シ若シ手形上ノ請求ヲ爲ス者カ債務者ヲシテ現在ノ文言通り責任ヲ負ハシメント欲セハ其署名ハ變造後ニ爲サレタルモノナルコトノ立證ヲ爲スヘキモノト爲シタルナリ第二手形行爲カ代理人ニ依リテ爲サレタル場合ニ關スル問題ナリ法律行爲ハ一般ニ代理人ニ依リテ之ヲ完成セシムルコトヲ得而シテ代理人カ本人ノ爲メニスル旨ヲ指示シテ手形行爲ヲ爲シタル場合ニ付テハ特ニ講究スヘキモノナシ唯茲ニ問題ト爲ルハ其代理人カ手形ニ此特別ノ狀態ニ在ル旨ヲ明示モスシテ署名ヲ爲シタル場合ニ關スルモノナリ固ヨリ此場合ニ付テモ手形面ノ上ニ於テハ其代理人ハ純然タル普通ノ狀態ニ在ルカ如ク署名シタルモノ

ナルカ故ニ其實際ニ於テ自己ニ責任ヲ負フノ意思ナキ者ナルニモセヨ手形ノ  
 文言上現實ノ署名者トシテ自ら手形上ノ責任スヘキコトハ第四百三十五條  
 ノ規定スル所ニシテ敢テ之ニ關スル特別ノ明文ヲ要セス然レトモ之ニ關シテ  
 ハ商法ノ他ノ規定トノ關係ヨリシテ生スル一ノ疑問アリ商法ハ其總則ニ於テ  
 廣ク一般ノ商行爲ノ代理ニ關スル第二百六十六條ノ規定ヲ設ケ商行爲ノ代理  
 ヲ爲ス者カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本人ニ對シ  
 テ效力ヲ生スルモノト爲シ居ルカ故ニ純然タル商行爲ノ一タル手形行爲ノ代  
 理ニ付テモ亦此總則ノ規定カ適用セラレ所謂本間ノ場合ニ或ハ本人ハ仍ホ手  
 形上ノ責任ヲ負擔スヘキモノナリヤト云フコトカ多少疑問ト爲ルナリ是ニ於  
 テカ法ハ特ニ第四百三十六條ノ規定ヲ設ケ之ニ對シテ消極的ノ決定ヲ與ヘ此  
 場合ニハ本人ハ手形上ノ責任ヲ負フヘキモノニ非サル旨ヲ明カニシタリ本條  
 カ積極的ニ手形ノ署名者タル代理人ノ責任ニ關スル方面ヨリ規定セラレスシ  
 テ特ニ手形面ニ現ハレサル本人ノ責任ヲ除却スル消極的方面ヨリ立法セラレ  
 タル所ヨリ推考スルモ又以テ手形上ノ權利義務ハ専ラ手形面ニ顯ハレタル文

ケル船舶ニテモ港灣ニ屬スルモノトシテ指定セラレタル部分以外ニ亘リ航行  
 スルモノニ非サレハ航海ヲ爲スモノト謂フヘカラス換言スレハ事實上ニ於テ  
 海ト看ルヘキ場所ニ在リテモ港灣トシテ指定セラレタル部分ナルトキハ其水  
 上ニ於テ運送ヲ爲スコトハ海商法ノ適用ヲ受ケサルモノナリ獨逸ニ於テモ千  
 八百七十三年商船ノ登記及ヒ表示ニ關スル法令ヲ以テ海上ニ於テ一定ノ區畫  
 ヲ示シ其以外ニ亘リテ航行スルモノヲ航海ナリト定メタリ

我現行法制ニ依レハ船舶ノ航路ハ四分ツコトヲ得即チ遠洋航海、近海航路、沿  
 岸航路、平水航路是ナリ外國ニ於テハ大別シテ遠洋航海、沿岸航海ノ二種ニ分ツ  
 ヲ普通トセリ例ヘハ英吉利ノ法律ニ於テハ外國航海、沿岸航海ノ區別ヲ設ケ又  
 佛蘭西法律ニ於テハ遠洋航海、沿岸航海、小航海ノ區別ヲ爲シ獨逸並ニ奧  
 太利ニ於テモ亦同様ナル區別ヲ爲セリ我商法ニ於テハ特ニ此區別ニ關シ規定  
 スル所ナシト雖モ第六百四十六條ニ沿岸小航海ニ關スル規定アリ沿岸小航海  
 ノ範圍ハ上ニ掲ケタル遞信省令ニ於テ之ヲ規定セリ  
 海上ノ交通ハ隔絶セル地方ノ關係ヲ密接ナラシメ聯絡ヲ通スル各國民ノ間ニ

共同ノ習慣ヲ發生スルニ至ルハ其自然ノ結果ナリトス故ニ羅馬法ニ揭タル「ロ  
 ード海法ハ各國ニ通スル國際法規」(ユス・ゼンシアム)ト爲リ又「コンソレト、  
 ドラマール」ニウ・スビ一海法ノ如キモ殆ト國際的法規トシテ認ムヘキモノナリ  
 シナリ近世ニ於ケル佛蘭西ノ海令ノ如キハ各國ノ法典ノ基礎ト爲リ海商法ニ  
 關シテハ諸國ヲ通シテ皆之ト大同小異ノ規定ヲ實施セリ元來海商法規ハ實際  
 ノ必要ト商業者間ニ於ケル習慣トニ基キテ發達シタルモノナルカ故ニ其國內  
 ノ法律ナルハ勿論ナリト雖モ大體ヨリ觀察スルトキハ一國若クハ一地方ノ規  
 則ニ非スシテ商業世界ノ通規ナリト謂フヲ得ヘシ隨テ地方的特別ナル規定ヲ  
 包含スルコト尠シ然レトモ近世諸國ニ於ケル法典ニ就キ細ニ研究スルトキハ  
 多少其國ニ特有ナル慣例ヲ採用シタルモノアルヲ免レス海運ノ發達ト共ニ各  
 國ノ間ニ於ケル海上關係ノ愈々密接ト爲レル現時ニ在リテハ此規定ノ差異アル  
 コトハ頗ル實際ノ便宜ヲ妨クル現象ヲ呈セリ故ニ識者或ハ夙ニ各國海商法ヲ  
 同一ナラシムル議論ヲ唱道スル者アリ嘗テ白耳義政府ハ其發案ヲ爲セシモ各  
 國政府ノ採用スル所ト爲ラヌシテ止ミタリ故ニ政府ノ行爲トシテハ未タ其方

針ニ出ツルニ至ラサレトモ實際家ハ必要ナル部面ニ付キ共同ノ規則ヲ設ケ之  
 ヲ遵奉セリ即チ「ヨーク」及ヒ「アント」ニル「規則」ノ如キハ其一例ニシテ萬國共通  
 ノ定規ナリト稱シテ不可ナキモノナリ此規則ハ國際法改良及ヒ編纂協會ノ發  
 議ニ係リタルモノナリ近年ニ至リ萬國海事會議並ニ萬國海法會議ノ開設アリ  
 此等會議ノ結果ハ漸次各國ヲシテ共同ノ法制ヲ實施セシムルノ途ニ就カシム  
 ルモノニシテ將來海商法ハ萬國共通ノモノヲ見ルニ至ルハ期シテ待ツヲ得ヘ  
 シト信セラル

### 第三章 船舶

#### 第一節 船舶ノ種類

船舶トハ最モ廣キ意味ニ之ヲ解釋スルトキハ其種類ノ何タルヲ問ハス苟モ水  
 上ニ於テ航行ノ用ニ供セラルルモノハ一切之ヲ包含スルモノトス即チ軍艦其  
 他軍事用ニ供セラルルモノモ商業、漁業等ノ用ニ供セラルルモノモ均シク船舶ト  
 稱セラルル法律上ニ於テ船舶ナル文字ヲ使用スルニハ其意味或ハ廣キコトアリ

或ハ狹キコトアリ例ヘハ海上衝突豫防法ニ於テ船舶ト稱スルハ軍艦其他ノ船舶ヲ併セ稱シ船舶法船員法ニ於テハ之ニ反シテ軍艦其他軍船用船舶ハ之ヲ包含セサルモノナリ我海軍ノ用例ニ於テハ普通船舶ト區別スル爲メ海軍艦艇ナル名稱ヲ以テ其所屬船舶ヲ指示セリ海商法ニ於テ船舶ト稱スルハ此艦艇ヲ包含セサルハ勿論ナリ艦艇以外ノ船舶ニ付テモ法規ノ適用上其大小ニ依リテ區別ヲ設ク海商法ニ於テ船舶ト稱スルハ比較的形體ノ大ナルモノヲ謂フ商法第五百三十八條ニ依レハ端舟其他櫓艦ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓ヲ以テ運轉スル舟ニハ海商編ノ規定ヲ適用セサルコトヲ規定セリ此端舟又ハ櫓艦ノミヲ以テ運轉スル舟ハ概シテ洋海ノ航行ニ適セス又縱令洋海ヲ航行シ得ルトスルモ商行為ヲ爲ス目的ノ用ニ供スルニ適セサルモノナリ隨テ海商法ノ規定ニ依ラシムル能ハサルハ明カニシテ既ニ法律ニ於テモ船舶ノ文字ニ對シテ舟ノ字ヲ用ヒ其區別ヲ明カニセリ

船舶ニ付テハ種種ノ分類ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ分類ノ方法ハ船舶ノ體質上ヨリスルト使用上ヨリスルトノ二様ト爲ヌヲ便宜トス

體質上ヨリスル分類方法ハ大凡四アリ

- (一) 材料ニ依ル分類 例ヘハ木殼鐵殼銅殼ノ類是ナリ
  - (二) 甲板ノ數ニ依ル分類 例ヘハ單甲板船二層甲板船三層甲板船ノ類ナリ
  - (三) 櫓ノ數ニ依ル分類 例ヘハ單櫓船兩櫓船ノ類是ナリ
  - (四) 動力ニ依ル分類 例ヘハ汽船帆船ノ類ナリ
- 次ニ使用上ヨリスル分類方法ハ大凡二アリ
- (一) 航路ニ依ル分類 例ヘハ遠洋航船近海航船沿岸航船平水航船ノ類ナリ
  - (二) 使用ノ目的ニ依ル分類 例ヘハ貨物運送船漁業船探檢船娛樂船等ナリ
- 以上列記シタルモノノ外ニ所有者ノ如何ニ依リテ區別ヲ爲スコトアリ例ヘハ所有者ノ内外人ナルニ依リ本國船外國船ト爲スカ如キ是ナリ又一箇人ノ所有ニ屬スルト官廳ノ所有ニ屬スルトニ依リテ私有船又ハ官有船ノ區別ヲ爲スカ如キ是ナリ

我商法第五百三十八條ニ依レハ海商法ノ適用ヲ受クヘキ船舶ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノニ限ル此規定ヨリ觀ルトキハ海商法ノ適用

ヲ受クル所ノ船舶ハ二ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

第一 航海ノ用ニ供スルモノナルコト

第二 商行為ヲ爲ス目的ヲ有スルモノナルコト

第一ノ要件ハ即チ航海ノ範圍ニ關係ス航海ノ範圍ハ既ニ第二章ニ於テ海商法適用ノ區域ニ就キ之ヲ述ヘタレハ茲ニ再ヒ説明セス第二ノ要件タル商行為ト云フハ商法第三編ノ規定ニ依リテ判斷スヘキモノナリ隨テ學術研究ノ爲メニ航海ノ用ニ供スル船舶若クハ娯遊ノ爲メニ航海ノ用ニ供スル船舶等ハ海商法ノ規定ヲ適用セサルモノナリ商行為ニ付キ規定ヲ設ケタルモノナルカ故ニ海商法ニ於テ商行為ヲ爲ス目的ヲ有スル船舶ノミニ付キ規定ヲ設ケタルハ當然ナリ然レトモ商行為ヲ爲ス目的ヲ有セサル船舶ニ付テモ其所有權船舶所有者船長海員ノ關係保險等ニ關シテハ全然商法ノ規定ニ依ルコトヲ得ルモノニシテ又依ラシメサルヲ得サルモノナリ故ニ船舶法第三十五條ニ依レハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニハ商法第五編ノ規定ヲ準用スヘキモノト定メタリ即チ此商法ノ規定ト船舶法ノ規定トヲ併セ研究

スルトキハ海商法ハ航海ノ用ニ供スル船舶ニ適用若クハ準用セラルルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ外國ノ法律ニ於テモ亦同様ノ規定ヲ掲ケタリ例ヘハ佛蘭西商法第九十條及ヒ白耳義商法第二編第一條ニ船舶及ヒ海船トアリ獨逸ノ法律ニ依レハ航海ニ依リ營利ヲ爲ス目的ヲ有スル船舶ハ海商法ノ規定ニ依ルヘキコトヲ定メタリ

### 第二節 船舶ノ性質

船舶ハ法律上ヨリ觀察スルトキハ特別ナル性質ヲ有スル動産ナリ其實體ハ種種ノ部分ヨリ成立シ自然人ノ如ク籍ヲ有シ又名ヲ付セラルル次ニ法律上ニ於ケル船舶ノ性質ヲ述ヘントス

第一 船舶ハ動産ナリ 船舶ハ價額貴重ニシテ其所有ヲ移轉スルコト普通動産ノ如ク頻繁ナラス又多クノ點ニ於テ家屋ト同視スヘキモノアルニ由リ往時ニ在リテハ船舶ヲ不動産トシテ取扱フヲ通常トシタリ今日ハ船舶カ動産ノ部類ニ屬スルコトハ既ニ疑ヲ容レサル所ナルモ仍ホ諸國ノ法律ニ於テ其動産ナ

ルコトヲ明言スルモノ尠カラス船舶ハ動産ナリトノ明文ヲ掲ケタルハ佛蘭西ノ千六百八十一年ノ海令ヲ首メトシ現行法ノ中ニハ佛蘭西商法第九十條和蘭商法第三百九條西班牙商法第六百八條、白耳義商法第二編第一條ニ同一ノ明文ヲ掲ク我舊商法ニ於テモ第八百三十四條ニ商船其他ノ海船ハ之ヲ動産トストノ規定ヲ設ケタリ前ニ掲ケタル佛蘭西法系ノ規定ニ準據シタルニ過キス現行商法ニ於テハ敢テ明文ヲ待タスト爲シ之ヲ削除セリ

商船ハ動産ナレトモ其法律上ニ於ケル性質ハ普通ノ動産ト異ナル所アリ即チ或點ニ於テハ不動産ト同一ノ取扱ヲ受クルモノナリ其重ナル點ヲ舉クレハ(一)一定ノ船舶ハ登記ヲ爲ササルヘカラス(第五四〇條)(二)登記シタル船舶ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ルモ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス(第六八六條第六八七條)(三)商船其他ノ船舶ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ依ル(民事訴訟法第七一七條)(四)船舶ニ關スル先取特權ハ第三者ニ追及ス(第六八〇條乃至第六八五條等)是ナリ其他船舶ハ利害ノ關スル所一二ノ箇人ニ止マラザルヲ以テ既ニ發航ノ準備ヲ終リタルトキハ其船舶ニ對シ差押ヲ爲スコトヲ許

ササルモノナリ(第五四三條)是レ法律カ船舶ニ對シ特別ノ取扱ヲ爲ス場合ノ一ナリ

第二 船舶ハ複雜體ナリ 船舶ハ種種ノ部分ヨリ成立ス其各部分ニ付キ細ニ研究スルコトハ造船學ノ範圍ニ屬スルヲ以テ茲ニ論セス法律ニ於テハ單ニ主物ト從物トノ區別ヲ爲スニ止マル船舶ニ於テ主物ト稱スルハ流船ニ在リテハ船體機關帆船ニ在リテハ船體ヲ指ス茲ニ船體ト稱スルハ廣キ意味ニ使用セルナリ狭キ意味ニテ船體ト稱スルハ龍骨外板等ノミヲ指ス廣キ意味ニテハ此他向ホ橋帆架舵索具等ヲ併セ稱スルモノナリ從物トハ船舶ノ本體ニ固著セザルモ航行上必ス缺クコトヲ得サルモノナリ即チ錨錨索唧筒端艇船燈測量器等是ナリ我船舶検査法ノ附屬命令ニ於テハ流船ニ付テハ船體機關屬具帆船ニ付テハ船體屬具ノ二ニ區別セリ茲ニ屬具ト稱スルハ橋舵等ヲ包含スルモ此等ノ規定ニ掲タル所ハ造船ノ技術上ヨリ定メタルモノニテ直チニ以テ法律上ニ於ケル船舶ノ主物從物ノ區別ニ適用スルコトヲ得サルヘシ法律ノ研究上ニ於テハ或物カ主物ナルヤ從物ナルヤ區別スルハ多ク實用ヲ見サレトモ船内ニ在ル一



定ノ物件カ船舶ニ屬スルモノナルヤ否ヤトノ點ハ眞議論ヲ生スル所ナリ船舶ノ主物ニ付テハ其船舶ニ屬スルモノナルコトハ技術上容易ニ判斷ヲ爲シ得ヘシト雖モ從物ニ付テハ議論アルヲ免レス例ヘハ端艇ノ如キハ船舶ノ屬具トシテ視ルヘキハ今日殆ト疑ヲ容ルヘカラサル如クナルモ尙ホ其從物ニ非サルコトヲ主張スル者ナキニ非ス其他大砲ノ如キ火藥ノ如キ又ハ食料品ノ如キ往往ニシテ議論ノ存スル所ナリ予輩ノ見ル所ニ依レハ問題ニアル物件カ常ニ船内ニ備ヘ置カルルモノナレハ船舶ノ從物トシテ論セサルヘカラスト雖モ若シ單ニ臨時ニ船内ニ置カレタルモノナラシメハ之ヲ船舶ノ從物ト爲スヲ得サルモノト認ム我舊商法ニ於テハ船舶ニ於ケル主物從物ノ關係ヲ示ス爲メ第八百三十八條ニ於テ列舉主義ヲ採リタリト雖モ現行商法ハ之ヲ廢シ單純ニ船舶ノ屬具目錄ニ記載シタルモノハ其從物ト推定スルノ規定ヲ掲ケタリ是レ獨逸商法ノ例ニ依リタルナリ各船舶ノ船長ハ屬具目錄ヲ船中ニ備ヘ置クノ義務ヲ有シ(第五六二條)船内ニ在ル各種ノ屬具ハ悉皆之ニ記入セサルヘカラス隨テ此目錄ニ記載シアアル物件ハ船舶ノ從物ナリト推定セラルルハ當然ナリト謂ハサルヘ

カラス然レトモ商法ニ於テハ單ニ推定ヲ下スニ過キササルヲ以テ當事者ハ反證ヲ舉ケテ其記入アル物件カ從物ニ非サルコトヲ主張シ得ルハ論ヲ俟タス而シテ船舶内ニ在ル物件カ從物ナルヤ否ヤノ問題ハ單ニ船舶所有權ノ移轉ニ關シ必要ナルノミナラス保險海損並ニ船舶所有者カ責任ヲ免ルル爲メ船舶ヲ委付スル場合等ニ重要ナル關係ヲ有スルモノナリ

第三 船籍及ヒ船名ノ船舶ハ人ト同シク籍及ヒ名ヲ有ス即チ法令ノ規定ニ依リ船籍港ヲ定メ其港ヲ管轄スル官廳ニ於テ登記及ヒ登録ヲ爲ササルヘカラス又登記又ハ登録事項ノ一トシテ名ヲ示ササルヘカラス我國ニ於テハ商船ハ古來ノ習慣ニ從ヒ普通何何九何九ト稱セリ而シテ此船名ハ蓋ニ變更スルコトヲ許サス之ヲ變更スルニハ當該官廳ノ特許ヲ受タルコトヲ要ス此他登記登録ニ付テハ尙ホ本章第五節ニ於テ詳述スヘシ

### 第三節 船舶ノ國籍

船舶ニ國籍ヲ有セシムルハ各國ノ法律ニ於テ其趣ヲ一ニスル所ナリ然レトモ

國籍ヲ與フルニ付テノ條件ハ國ニ依リテ差別アリ又時代ニ依リテ異ナル所アリ各國ニ於テ國籍ヲ與フル條件トシテ定メタルモノニ就キ最モ普通ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

第一 所有者ニ關スル條件 船舶ノ所有者カ本國人ナルニ非サレハ國籍ヲ與ヘストスルモノ是ナリ此條件ハ何レノ時代何レノ國ヲ問ハス概テ採用セララル所ナレトモ其範圍ニ多少ノ相違スル所ナキニ非ス即チ或法律ニ於テハ船舶ノ全部カ本國人ニ屬スルコトヲ必要ト爲スモノアリ他ノ法律ニ於テハ船舶ノ半分以上若クハ三分ノ二以上本國人ニ屬スレハ可ナリト定ムルモノアリ船舶所有者カ會社等ノ法人ナル場合ニハ其法人カ本國ノ法權ニ服從スルトキハ該法人ノ所有スル船舶ニ國籍ヲ與フルコトト定メタル法律アリ或ハ尙ホ進ミテ其代表者カ本國人ナルコトヲ必要トスル法律アリ

第二 船舶乗組員ニ關スル條件 或法律ニ於テハ船舶乗組員ノ全部カ本國人ナルニ非サレハ國籍ヲ與ヘストスルモノアリ他ノ法律ニ依レハ船舶乗組員ノ内船長運轉士等ノ職員カ本國人ナルニ於テハ其船舶ニ國籍ヲ與フヘシト爲ス

モノアリ又船長其他ノ職員並ニ乗組海員ノ幾部分カ本國人ニ非サレハ國籍ヲ與ヘスト定ムル法律アリ

第三 造船ニ關スル條件 或法律ニ於テハ船舶カ本國ニ於テ製造セラレタルニ非サレハ國籍ヲ與ヘスト定ムルモノアリ又或法律ニ於テハ船舶ハ本國ニ於テ製造セラレタルモノニテモ外國ニ於テ大修繕ヲ加ヘタルモノハ國籍ヲ與ヘスト定ムルモノアリ

以上列記シタル三箇ノ要件ハ或國ニ於テハ皆併セテ之ヲ規定スルモノアリ又或國ニ於テハ唯其一ヲ限リ殊ニ所有者ニ關スル要件ニ適合スルコトヲ要スト規定スルモノアリ沿革上ヨリ言ヘハ往古ハ極メテ嚴重ナル規定ヲ實施セリ換言スレハ前掲ノ要件ヲ悉ク併セ履行スルニ非サレハ國籍ヲ與ヘスト爲セルヲ普通トセリ然ルニ近來ニ及ヒテ其制限ハ漸次輕減セララルニ至レリ我現行法ノ規定ハ如何ナリヤト見ルニ船舶法第一條ニ日本船舶ト爲スモノヲ掲ク即チ左ニ列記スル者ノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トスルモノナリ

一 日本ノ官廳又ハ公署

二 日本臣民

三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社

此會社ニ付テハ別ニ條件アリ即チ合名會社ナルトキハ社員ノ全部合資會社及ヒ株式合資會社ナルトキハ無限責任社員ノ全員株式會社ナルトキハ取締役ノ全員又舊商法ノ規定ニ依リテ設立サレタル合資會社ナルトキハ業務擔當社員ノ全部カ日本臣民ナルコトヲ必要トス

四 日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人

此法人ニ關シテモ別ニ條件アリ即チ法人ノ代表者ハ日本臣民ナルコトヲ必要トス

我法律ニ於テハ所有者ニ關スルモノノ外ニハ何等ノ條件ヲモ設クルコトナシ故ニ前段ニ掲ケタルモノノ所有ニ屬スル船舶ハ日本ニ於テ製造セラレタルト外國ニ於テ製造セラレタルトヲ論セス又船長其他ノ乘組員カ日本人ナルト否トニ拘ハラス日本船舶タル資格ヲ與フルモノナリ然レトモ前ニ述ヘタル所有ニ屬スルト云フ意味ハ船舶ノ全部カ日本臣民其他船舶法ニ列記シタル者ニ屬

スルコトヲ指スモノトス縱令大部分カ日本臣民ノ所有ニ屬スルト雖モ一部分カ外國人ノ所有ニ屬スルトキハ其船舶ハ日本船舶タル資格ヲ得ルコト能ハス次ニ參考トシテ外國ノ法律ニ於ケル規定ヲ示スヘシ

- (一) 英吉利 英吉利ノ商船條例第一條ニ依レハ下ニ舉グル所ノ者ノ所有ニ屬スル船舶ハ英吉利船舶ナリ(一)天不列顛國出生ノ臣民(二)聯合王國ノ法律又ハ其領土内ニ於ケル立法機關ノ制定シタル法令ニ依リテ本籍ニ登錄セラレタル人
- (三)歸化人四英國ノ領土内ノ法律ニ依リ設立シ且其領土内ニ本店ヲ有スル會社ノ所有ニ屬スルモノ是ナリ

- (二) 獨逸 獨逸ノ現行法ニ依レハ獨逸ノ國民分限ヲ有スル人ニ專屬スル商船ハ聯邦ノ國籍ヲ揭クルコトヲ得ト爲セリ聯邦ノ領土内ニ設立サレタル株式會社及ヒ株式合資會社並ニ千八百六十七年三月二十七日ノ法律ニ依リ普通西ニ於テ登錄ヲ受ケタル組合ニシテ聯邦領土内ニ於テ住所ヲ有シ又株式合資會社ノ場合ニハ無限責任ノ社員カ國民分限ヲ有スルトキハ其所有スル船舶ハ獨逸船舶ト爲スノ規定ナリ

(三) 佛蘭西 佛蘭西ノ現行法ニ依レハ船舶カ佛國ノ國籍ヲ有スルニハ二ノ要件ヲ具備セザルヘカラス即チ(一)船舶ノ所有權カ二分ノ一以上佛國人ニ屬シ若クハ佛國ノ法令ニ依リテ設立シ且佛國ニ住所ヲ有スル會社ニ屬スルコト(二)船舶ニ乗組ム船長並ニ士官ノ全員其他ノ船員ハ四分ノ三以上佛國人ナルコト是ナリ此二箇ノ條件ヲ滿タシタル船舶ハ佛蘭西船舶ナリ

(四) 北米合衆國 合衆國ノ現行法上ニ於テハ船舶ニ國籍ヲ與フルニハ下ニ掲タル三條件ニ適合スルコトヲ必要トス(一)船舶ハ合衆國民若クハ合衆國ノ法律ニ依リテ設立シタル法人ノ所有ニ專屬スルコト(二)船舶ノ船長並ニ士官ノ全部カ合衆國民ナルコト(三)船舶ハ合衆國ニ於テ製造セラレタルカ若クハ戰時ニ際シ合衆國民ニ於テ之ヲ捕獲シ戰利品トシテ正當ノ判決ヲ經タルカ又ハ合衆國ノ法律ニ於テ沒收セラレタルモノナルコト

前記以外ノ歐羅巴諸國ノ法律ハ大同小異ナリ伊太利ノ法律ハ多少他ノ法律ト趣ヲ異ニスル所アリ伊太利ノ法律ニ於テハ船舶カ伊太利船舶タルニハ當ニ伊太利人民ノ所有ニ屬スル場合ノミナラス五年以上伊太利王國ニ住居スル外國

權利ヲ傷害セラレタルコトヲ要スルカ故ニ縱令違法處分アリトスルモ權利ノ傷害ナキトキハ行政訴訟ノ原因ト爲ルコトナシ例ヘハ官廳カ法規ノ適用ヲ誤リ不當ニ少額ノ課稅ヲ爲シタル場合ニ於テ其違法ノ課稅カ選舉資格ニ何等ノ影響ヲ及ボササルトキノ如キハ權利ノ傷害ヲ生セザルヲ以テ行政訴訟ノ原因ト爲ラサルナリ

行政訴訟ハ單ニ處分カ違法ナリトノ理由ノミヲ以テハ成立セス違法處分カ權利ヲ傷害シタル事實アルニ及ヒテ成立スルモノナリ此點モ亦行政訴訟ノ行政訴訟願ト異ナル點ニシテ即チ一ハ權利ノ救済ヲ目的トシ他ハ利益ノ救済ヲ目的トスルニ依ルモノナリ

(五) 行政訴訟ハ裁判ヲ求ムルモノナリ 裁判トハ當事者間ノ法律關係ヲ裁定スルノ謂ニシテ當事者ノ參與ニ依リテ行ハルル處分ノ形式ナリ行政訴訟ハ法定ノ手續ニ依リテ當事者間ノ法律關係ヲ判定スルノ趣旨ニ出ツ是レ亦行政訴訟ト行政訴訟願ト異ナル第二點タリ即チ行政訴訟願ハ下級官廳若クハ當該官廳ノ前處分ノ再審ヲ求ムルノ形式ニシテ新ナル處分ヲ以テ舊處分ヲ更新スルノ效

果ヲ有ス之ニ反シテ行政訴訟ハ處分ヲ爲シタル官廳ヲ一箇ノ訴訟當事者即チ人格ヲ有スル者ニ擬シテ之ニ對スル臣民ノ法律關係ヲ裁定スルノ趣意ヲ先ニス然レトモ行政裁判ノ效果ハ訴訟ト同シク直接ニ處分ノ更新ヲ生スルモノナリ

(六) 行政訴訟ハ法ニ依リテ認めラレタル公權ノ一種ナリ此點ハ訴訟ト異ナル所ナシ

終ニ行政訴訟ノ性質上常ニ學者間ニ議論ト爲ル所ノ行政訴訟ノ當事者ハ何人ナリヤ問題ニ付キ説明スルノ要アリ學者或ハ國家ヲ以テ行政訴訟ノ當事者ナリト爲シ或ハ實質上當事者ヲ定ムルコトヲ得スト論ス予ハ行政訴訟ノ當事者ハ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノニシテ而シテ其當事者ノ一方ハ官廳ナリト信ス何トナレハ行政訴訟ノ當事者ヲ定ムルコトヲ得ルハ現行行政裁判法ノ形式上ヨリシテ其成文上一點ノ疑ヲ容ルルノ點ナク而シテ其被告モ亦官廳ナルコトハ成文ノ上ヨリ爭フコトヲ得サルノ事實ナレハナリ假ニ官廳ヲ以テ被告ト爲ストキハ之ニ人格ヲ認めサルヘカラサルニ至リ一見官廳無人格ノ主義ニ反

スルカ如シト雖モ法カ其成文ヲ以テ或事項ニ付キ獨立ノ意思ヲ認めタル以上ハ其範圍内ニ於テモ仍ホ人格ナシト主張スルコトヲ許ササルナリ然リ而シテ法カ官廳ニ人格ヲ認ムルト否トハ一ニ便宜ニ因リ決定セラルヘキ問題ニシテ立法論トシテ之ヲ認ムヘカラサルノ理由ナシト謂フヘシ而シテ予ハ行政裁判法ノ解釋上及ヒ行政裁判ノ性質上官廳ニ人格アルコトヲ主張セントス此事ハ實ニ行政裁判ニ付テノミ然ルモノニ非ス會計法上ノ規定ニ於テモ亦往々此事アルヲ見ルナリ例ヘハ各省ノ間ニ於テ私法上ノ法律行為ヲ爲スコトヲ規定シタルカ如キ其例ナリ

行政訴訟ハ其手續上處分ヲ爲シタル官廳ヲ以テ公共團體ノ如ク制限的ノ人格ヲ有スルモノト看做シ此人格者ニ對シテ臣民ヲシテ或權利ヲ主張セシメ國家ハ第三者ノ位地ニ立チテ當事者間ノ法律關係ヲ裁定スル擬制ニ依ル一種ノ形式ナリ若シ論者ノ如ク當事者ノ一方ハ國家ナリト論スルニ於テハ結局一ノ人格者カ同一ノ人格者ニ對シテ判決ヲ下スコトト爲リ行政裁判ハ裁判ノ特質ヲ失フノミナラス法學上何等ノ意味ヲ求ムルヲ得サルニ了ルヘシ

行政裁判ハ形式ノ上ニ立ツモノニシテ其實質ヲ觀ルトキハ國家タル人格者カ一旦人民ニ發表シタル意思ヲ再考ニ付スルニ外ナラサルナリ若シ論者ニシテ單ニ此點ノミヲ論スルモノナレハ則チ可ナリト雖モ一方ニ於テハ裁判ナル形式ヲ認メナカラ他方ニ於テ實質ヨリ問題ヲ決セントスルハ論理ヲ貫カサルモノト謂フヘキナリ

### 第二款 現行ノ行政訴訟

予カ前款ニ述ヘタル所ハ行政訴訟ヲ專ラ理論上ヨリ定解シタルモノニシテ其所說ハ必スシモ現行制度ト相一致スルモノニ非ス故ニ本款ニ於テ現行制度ノ沿革及ヒ現行行政裁判所ノ組織權限並ニ其裁判手續ニ付テ詳述スヘシ

#### (第一) 現行行政訴訟ノ沿革

明治五年司法省第四十六號達ヲ以テ地方官ニ對シテ訴訟ヲ提起セントスル者ハ通常裁判所ニ其訴狀ヲ提出シ判決ヲ求ムルコトヲ得セシメタリシカ之カ爲メ地方官ニ對スル所ノ訴訟一時ニ増シ其結果行政官ハ常ニ司法官ノ鼻

息ヲ窺ヒテ法ノ解釋ヲ爲スカ如キ狀態ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ遂ニ明治七年司法省第二十四號達ヲ以テ始メテ行政裁判ノ制度ヲ與シ爾來地方官ヲ相手トスル訴訟ハ裁判所ヨリ之ヲ太政官ニ具狀稟申シ其指揮ヲ受ケシムルコトト爲セリ當時ニ在リテハ郡區長ヲ被告ト爲ス訴訟ハ之ヲ始審裁判所ニ提起シ知事以上ヲ被告ト爲ス訴訟ハ之ヲ控訴院ニ提起スルコトト爲セリ而シテ當該裁判所ハ其訴訟ヲ受理スルヤ否ヤニ付キ之ヲ司法省ニ具狀シ司法省ハ意見ヲ付シテ閣議ニ呈出シ閣議ノ決定ヲ待テテ受理判決ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲セリ故ニ當時ノ行政裁判ハ一ニ内閣ノ權内ニ存セリト云フモ過言ニ非サルナリ

明治二十二年六月法律第十六號ニ於テモ亦前ト同シク市町村制ノ規定ニ依リ提起セラルヘキ行政裁判ハ當分ノ中現行ノ手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ受理審問シ内閣ノ裁定ヲ經テ判決ヲ言渡スヘキコトヲ規定セリ然ルニ明治二十三年憲法ノ施行ト共ニ其第六十一條ノ規定ニ依リテ司法裁判所ハ當然行政訴訟ノ管轄權ヲ失フニ至レルヲ以テ其六月始メテ行政裁判法ヲ發布シ獨立

ナル裁判所ヲ設クルコトト爲レリ 現行行政裁判法即チ是ナリ

(第二) 現行行政裁判所ノ組織

現行行政裁判所ノ組織ハ普國ニ於ケルカ如キ三級審ノ制度ヲ採ラス 奧太利國ノ制度ニ倣ヒテ中央ニ一箇ノ裁判所ヲ設クルニ止マレリ而シテ之ヲ組織スル裁判官ハ評定官ト稱シ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官又ハ裁判官タル職ヲ奉シタル者ヲ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リテ任命シ其裁判ヲ爲スニ當リテハ必ス五名以上ノ列席合議アルヲ要スルモノトス而シテ此等評定官ノ權利義務ハ略ホ司法官ト同一ナリトス

(第三) 現行行政裁判所ノ權限

我現行行政裁判所ノ權限ハ明治二十三年法律第百六號ニ依リ規定セラル而シテ其訴訟事項ハ訴訟事項ト大同小異ナリ即チ左ノ六種トス

- (一) 租稅及ヒ手數料賦課ニ關スル事件 但海關稅ヲ除ク
- (二) 租稅滯納處分ニ關スル事件
- (三) 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

(四) 水利及ヒ土木ニ關スル事件

(五) 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

(六) 其他法律勅令ニ於テ特ニ訴訟ヲ許シタル事件

而シテ右第六ニ所謂法律勅令ニ於テ特ニ訴訟ヲ許サレタルモノハ一、礦業ニ、河川三、砂防四、森林五、國有林野六、地方制度七、恩給八、遺族扶助料等ニ關スル諸法令ナリトス

(第四) 現行行政裁判ノ手續

行政訴訟ハ文書ヲ以テ提起スルコトヲ要ス而シテ裁判所ニ於テ受理スヘキコトヲ決定シタルトキハ其複本ヲ被告ニ送達シ答辯書ヲ差出サシム此手續ヲ爲シタル後裁判所ハ期日ヲ定メテ原被告兩造並ニ利害關係者ヲ呼出シ口頭審問ヲ爲スヘキモノナリ而シテ行政裁判ニ於テハ檢事ノ制度ナク其之ニ代ルヘキ者ヲ委員トス委員ハ主務大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニ公益保護ノ爲メ之ヲ任命シ法廷ニ於テ意見ヲ陳述セシムルモノナリ裁判所ノ判決ハ一審終審ニシテ覆審ヲ求ムルコトヲ得ス其效力ハ當事者ヲ羈束スヘキモノナ

行政裁判所ニハ特別ノ執行機關ヲ有セス故ニ之ヲ通常裁判所ニ委任シテ執行セシムルヲ例ト爲ス

以上述ヘタル四點ハ現行行政裁判所ニ關スル制度ノ概要ナリ茲ニ刻下ノ問題タル訴訟事件ヲ定ムル方法ニ付キ一言スルノ必要アルヲ以テ聊カ之カ説明ヲ試ミントス

訴訟事件ヲ定ムルノ方法ニ二種アリ(一)ハ即チ概括法ニシテ違法處分權利傷害ノ場合ニ於テハ其事項ノ如何ヲ問ハス訴權ヲ認ムルノ制度ナリ(二)ハ即チ列記法ニシテ特定ノ事項ヲ指定列記シテ其列記事項ノ範圍内ニ於テノ違法處分權利傷害ノ訴ヲ提起スルコトヲ認ムル制度ナリ抑モ國家カ公權傷害ニ對シ絶對ニ救濟手段ヲ認メスハ則テ止ム然レトモ一タヒ之ヲ是認スルノ主義ヲ採リタルニ拘ハラズ特定事項ニ限リテハ公權ノ救濟手段ヲ認メ其他ノ事項ニ付テ之ヲ認メサルハ猶ホ民法カ賣買ニ付テハ訴權ヲ認メナカラ贈與ニ付テ之ヲ認メタルカ如ク法治國ノ主義上其旨ヲ得タルモノニ非ス是ニ由リテ之ヲ觀レハ一旦公權救濟手段ヲ認容シタル以上ハ概括法ヲ以テ訴訟事項ヲ定ムヘキハ

當然ノ條理ナリト謂フヘシ然ルニ民權ノ盛ナル歐洲ニ於テモ獨逸聯邦ノ一國タル「ウルランブルヒ」ヲ除クノ外ハ絶對的ニ概括法ヲ採用セサル所以ノモノハ一ニ其國情勢ノ致ス所ニシテ純理ヲ排シテ時勢ノ便宜ニ從フノ已ムヲ得サルニ出ツ今左ニ此二種ノ方法ニ付キ法理上及ヒ實際上ノ利害得失ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 概括法ノ利害

(イ) 長所 概括法ノ長所ト看ルヘキハ法治ノ主義ヲ一貫シ行政裁判制度ノ精神ヲ擴充スルノ點ニ於テ理論上當ニ然ルヘキ所ナルヲミナラス實際上人民ノ訴權ヲ認ムル上ニ於テ脱漏ヲ弊ヲ防クコトヲ得ヘシ

(ロ) 短所 行政官ハ各般ノ處分ニ付キ人民ヨリ出訴セラルルニ至リ往往私怨ノ爲メニ報復ノ具ニ供セラルルコトヲ免レシ其結果延テ行政ノ活動ヲ萎微セシムルノ虞アルヲミナラス法規ノ規定未タ完備セサル時代ニ在リテハ臣民公權ノ範圍自ラ曖昧ニシテ訴權ノ成立不成立ニ付キ判別ヲ爲スニ苦ム

コト多ク其弊害夥シトセス



(1) 列記法ノ利害

(イ) 長所、人民ニ重大ナル利害關係ヲ有スル事項ニ付テハ、ミ訴權ヲ認ムル  
トキハ人民ノ利益ヲ害スルコト大ナラスシテ而モ濫訴ノ弊ヲ防キ行政ノ活  
動ヲシテ敏活ヲ期スルコトヲ得ヘク且法文中訴權アルヤ否ヤヲ明記スルヲ  
以テ其成立不成立ヲ容易ニ判別スルコトヲ得ルノ利アリ  
(ロ) 短所、法治ノ主義上ヨリ觀察シ置ニ行政裁判制度ノ主義ヨリ論シ理論  
上辯護スルノ餘地ナキコト及ヒ訴訟ヲ許スヘキ事項ヲ列記スルニ際シ往往  
不權衡ヲ生シ及ヒ誤脱ヲ免レサルノ缺點アリ

今歐洲各國中英吉利白耳義ノ如キ行政裁判所ヲ設置セサル國ハ姑ク之ヲ措キ  
佛國ノ如キハ行政官ノ越權ノ處分ニ對スル訴訟及ヒ國庫訴訟ヲ除クノ外概テ  
列記法ヲ採用シ獨逸聯邦中ノ普瀋西巴威耳巴丁ノ如キ亦皆列記法ニ依レリ奧  
太利ハ原則トシテ概括法ヲ探レルカ尙ホ多クノ例外ヲ認メタリ我現行政裁  
判法モ亦此諸邦ト同シク列記法ニ依リ訴訟事件ヲ限定セリ是レ我邦民情ニ照  
シ臣民ノ法律思想極メテ幼稚ナルノミナラス其公德ノ思慮未タ發達セス行政

法規亦頗ル不完全ヲ極メ公權ノ體裁範圍明瞭ナラサルノミナラス新進國ノ國  
是トシテ國權ノ活動最モ積極的ナルコトヲ必要トスルノ時代ニ於テハ尙ホ  
列記法ニ依ルコト已ムヲ得サルコトニ屬ス是ヲ以テ我邦行政裁判制度ハ發達  
ハ漸次列記事項ノ範圍ヲ擴張スルニ在リテ一躍概括法ヲ採用スルノ不可ナル  
コトヲ知ルニ足レリ

然ルニ世上或ハ憲法第六十一條ハ概括法ヲ規定シタルモノナリト論スル者ア  
リト雖モ同條ニ所謂行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノト稱スルハ公權ノ爭訟  
ハ行政裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルコトヲ云フニ止マリ行政裁判所ハ總  
テノ公權爭訟ヲ受理スヘシト命スルモノニ非ス而シテ或係爭事件ニ付キ訴訟  
ヲ許スヘキヤ否ヤハ一ニ法ノ定ムル所ニ一任セシモノナリ果シテ然ラハ我現  
行法カ列記法ヲ採用シタルハ違憲ナラサルノミナラス將來ニ於テ概括法ヲ採  
用スヘキヤ否ヤハ法律上ノ問題ニ非スシテ統治政策上ノ問題ナリト謂ハサル  
ヘカラス

## 第二編 行政ノ組織

### 第一章 總論

予カ本編ニ於テ行政ノ組織ト謂フハ國家カ統治ノ目的ヲ達スルカ爲メニ必要ナル機關ノ組織ヲ指稱ス而シテ此行政機關ニハ憲法上ノ機關アリ又法律上ノ機關アリ命令上ノ機關アリ共ニ天皇ノ手足トシテ國家ノ意思ヲ實行スルノ責ニ任スルモノタリ憲法上ノ機關ニ付テハ茲ニ之ヲ論スルノ限ニ在ラサルヲ以テ之ヲ除キ法令上ノ機關ニ付テノミ其組織權限ヲ論セントス

機關ノ組織ハ其觀察點ヲ異ニシテ之ヲ分ツトキハ中央組織地方組織及ヒ官治ノ組織自治ノ組織ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ

(第一) 中央組織及ヒ地方組織

中央組織ハ或ハ之ヲ分職制ト稱シ全國ノ事務ヲ中央ノ機關ニ分掌セシムルノ方法ナリ地方組織ハ或ハ之ヲ分地制ト稱シ全國ヲ數多ノ管轄區域ニ分テテ其管轄區域内ニ於ケル一切ノ事務ヲ一ノ機關ニ集中セシムルノ方法ヲ謂

フ而シテ此兩種ノ組織ハ何レノ時代ニ於テモ折衷シテ行ハルル所ナリ換言スレハ事務ノ大小輕重ニ依リテ或ハ中央組織ニ依ル機關ヲシテ掌ラシメ或ハ地方組織ニ依ル機關ヲシテ掌ラシムルコトト爲レリ

(第二) 官治組織及ヒ自治組織

官治組織ト自治組織トノ區別ハ機關構成ノ狀態ヨリ分類セシモノニシテ前者ハ國家カ自ラ政務ヲ處辨スルノ狀態ニシテ後者ハ一定地域内ノ人民ノ共同團體ニ自主獨立ノ目的ヲ與ヘ其地方ノ公共事務ヲ處辨セシメ國家事務ノ一部ヲ團體ノ事務トシテ行ハシムルノ方法ナリ事務ノ大小輕重ニ從ヒ或モ官ノ官治ノ下ニ處理セラレ或モノハ自治ノ下ニ處理セララルモノニシテ此間一定ノ標準ノ確立スルモノニ非アルナリ

以上二種ノ區別ニ關シテ特ニ注意スヘキモノアリ即チ中央集權及ヒ地方分權ノ關係是ナリ

中央集權及ヒ地方分權ナル觀念ハ統治權ノ所在ヲ事實上ヨリ觀察シタルモノニシテ政務カ中央機關ニ集中スル中央組織ノ極端ハ即チ中央集權ナリト稱ス

ルヲ得ヘク一般ノ政務カ中央ニ集中セス各地方ニ於テ處理セラルルノ状態即チ地方組織ノ極端ハ地方分權ナリト雖モ中央集權ハ必スシモ官治組織ト相合致スルモノニ非ス何トナレハ官治組織ト雖モ地方官廳ニ廣大ナル職權ヲ付與シタルトキハ即チ地方分權ト爲ルヘケレハナリ然レトモ中央集權ニシテ極端ニ其原則ヲ貫徹スルトキハ自治ノ組織ト相容レサルニ至ルヘシ何トナレハ自治ノ組織ハ一定ノ政務カ地方限ニ處理セラルルノ状態ヲ以テ觀念ノ前提トスレハナリ又地方分權ハ官治組織ノ下ニ於テモ行ハルルコトハ前述セルカ如シ而シテ地方分權ハ必ス自治組織ト相離ルヘカラサルモノナリ何トナレハ自治組織アルトキハ其範圍内ニ於テハ必ス地方分權アルヲ以テナリ然レトモ地方分權ハ悉ク自治ノ組織ヲ前提ト爲セルモノニ非ス何トナレハ前ニ述ヘタルカ如ク官治組織ト雖モ地方限リ處理セラルルノ政務アル以上ハ地方分權ナレハナリ

## 第二章 官廳

行政法上官廳トハ國家ノ命令權ヲ外部ニ行使スル所ノ機關ナリ而シテ此機關ニハ尙ホ幾多ノ附屬機關アリテ或ハ官廳ノ内部ニ活動シテ官廳ノ行動ヲ準備シ或ハ既ニ發表セラレタル官廳ノ意思ヲ執行スルモノアリ此等ノ機關ハ即チ所謂補助機關ニシテ官廳ニ附屬スルモノナルヲ以テ官廳ノ觀念ノ要素ヲ形成スルモノニ非サルナリ

官廳其他ノ法規ニ依リテ獨立ノ存在ヲ有スル組織ニシテ外部ニ對シテ國家ノ命令權ヲ行使セサルモノ(例ヘハ法制局製鐵所アリ)此等ノ組織ハ法令ノ形式上獨立ノ地位ヲ有スルヲ以テ官廳ニ類似スト雖モ其性質ハ總テ或官廳ニ附屬シ又ハ官廳ノ爲メニ其活動ヲ補助準備スルニ止マルモノナルヲ以テ此等ノ種類ニ屬スルモノヲ官署ト稱シ以テ官廳ト區別スルヲ穩當トス  
官廳官署及ヒ其之ヲ組織スル官吏ハ總テ官制ニ依リテ創設セラルルヲ原則トス故ニ予ハ節ヲ改メテ官制ニ付テ略説セントス

### 第一節 官制

官廳ヲ設置スル國家ノ意思表示ハ組織命令中ノ官制命令ニ依ルヲ通例トス官制命令トハ行政機關ノ組織ヲ定メ其權限即チ職務ヲ分配ヲ定ムル所ノ規定ナリ然レトモ時トシテハ官制カ自ラ機關ニ職務ヲ創設スルコトナキニ非ス惟フニ此等ハ官制命令本來ノ目的ニ對シテ例外ヲ爲スモノニシテ固有ノ官制命令ナルモノハ官制以外ノ法令ニ依リテ定マリタル行政機關ノ職務ヲ特定ノ行政機關ニ分配スルヲ以テ其本分トセルモノナリ結局行政機關ノ職務權限ハ原則トシテ官制命令ニ依リテ創設セララルコトアルヘカラス官制ハ行政機關ヲ創設スル國家ノ意思表示ナリト雖モ行政機關ハ總テ官制ニ依リ創設セララルモノニ非ス現行ノ慣例上條例又ハ規則ナル名稱ノ下ニ其實官制ヲ定ムルモノハ姑ク之ヲ措キ官制命令以外ノ規定即チ憲法法律ヲ以テ機關ヲ創設セララルコトアルハ憲法第十條但書ノ認ムル所ナリ

司法裁判所ハ實質上ノ意義ニ於ケル行政機關即チ執法機關ナリ然ルニ憲法ハ其權限ニ付キ規定ヲ爲シ又行政裁判所會計検査院ハ實質形式其ニ行政機關タルニ拘ハラズ憲法ハ其權限ノ一部ニ關シテ規定ヲ設ケタリ其他法律ヲ以テ創

設セララルル所ノ官廳ハ茲ニ一一列擧スルニ違アラサルナリ

上流シタルカ如キ特例ヲ除外スレバ其他ノ行政機關ハ總テ官制ニ依リテ組織モラルヘキモノナルコトハ憲法第十條本文ノ規定スル所ナリ凡ソ行政機關ハ其官廳タルト官署タルトヲ論セス國家命令權ノ行使ニ參與スルモノナルカ故ニ其組織權限ノ如何ハ臣民ノ權利義務ニ重大ナル關係ヲ及ボスモノナリ是ヲ以テ歐洲諸國ニ於テハ官制事項ヲ以テ法規ナリトシ法規ハ法律ニ依ルニ非サルヨリハ之ヲ定ムルコトヲ得ストノ原則ヲ適用シテ外部ニ對シテ命令權ヲ行使スル行政機關即チ官廳ノ組織ハ法律ニ依ラサルヘカラスト論スル者アリ佛國公法學者ハ概テ此說ヲ採レリ普國ニ於テモ國務大臣ハ議會ノ意思ニ依リテ進退スヘキモノナルカ故ニ大臣ノ權限ハ法律ヲ以テ定ムヘキモノナリト主張スル學說一時行ハレタリト雖モ後佛國ニ於ケル學說ト一致スルニ至リ爾來官制ハ果シテ法規ナリヤ否ヤノ問題ヲ公法學上ノ重大ナル研究題目ト爲スニ至レリ

官制ヲ以テ法規ナリト論スル學者ノ說ニ曰ク官制ナルモノハ君主カ行政機關

ニ事務ヲ委任スルモノナルハミナラズ往々外部ニ對シテ國權ヲ行使セシムルモノナルカ故ニ官制ノ規定ハ臣民ノ權利自由ト密接ノ關係ヲ有シ隨テ官制其モノハ法規ナラサルヘカラスト之ニ反對スル學說ノ論旨ハ官廳ハ命令權ヲ行使スルモノナリト雖モ是レ法令ニ依リテ既ニ定マレル行政機關ノ職務ヲ分配スルニ過キナルカ故ニ如何ナル官廳カ既定ノ命令權ヲ行フヘキヤヲ規定スル所ノ命令ハ法規ヲ定ムルモノニ非サルナリ即チ唯法令ヲ執行スル爲メニ必要ナル規定ヲ設クルニ止マルモノナリト論駁セリ

此ノ如ク官制ハ法規ナリヤ否ヤノ問題ニ付テハ歐洲ニ於ケル學說未タ一定セスト雖モ我邦ニ於テハ命令モ亦法規ヲ定ムルコトヲ得ヘキヲ以テ縱令官制カ法規ナリトスルモ命令ヲ以テ規定スルコトヲ得スト論スルヲ得ス況ヤ憲法第十條ニ於テハ明カニ官制權ヲ天皇大權ニ留保シタルニ於テヲヤ  
之ヲ要スルニ我國法上ニ於テハ官制ハ法規ナリヤ否ヤノ問題ハ實用ナキ論題ニ屬スト云フモ過言ニ非サルナリ然レトモ學理ノ研究トシテ官制ノ性質ヲ攷フルトキハ官制ハ總テ法規ヲ定ムルモノナリト論スルコトヲ得ス即チ既ニ他

ノ法令ニ依リテ定マリタル所ノ命令權ノ分配ヲ定ムルモノハ法規ニ非スシテ法令ノ執行上必要ナル一種ノ執行命令ニ屬ス然レトモ官制ニシテ新ニ國家ノ命令權ヲ創設スルノ規定ヲ設クルニ至リテハ之ヲ以テ法規命令ニ非スト論スルヲ得サルナリ是ヲ以テ現行ノ官制ハ執行命令ト法規命令トノ孰レカ一ノ性質ヲ有シ若クハ二ノ性質ヲ併有スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ  
學者或ハ行政法規ヲ分類シテ主法及ヒ手續法ノ二ト爲シ主法ハ行政權ト臣民トノ關係ヲ規定スルモノニシテ手續法ハ行政機關及ヒ其行動ノ關係ヲ規定スルモノナリト論セルハ官制ヲ以テ一種ノ法規命令ナリト爲ス見解ニ出ツルモノナリト雖モ參考ノ價值ナキニ非スト信ス

### 第二節 官廳ノ性質

官廳トハ一人又ハ數人ヲ以テ之ヲ組織シ法令ノ規定ニ依リテ國家命令權ノ行使ニ屬スル事務ヲ一定ノ範圍ヲ限リテ掌管シ國家ヲ爲メニ命令若クハ處分ヲ爲ス等一定ノ意思ヲ決定シ之ヲ外部ニ發表スル所ノ機關ナリ

左ニ之ヲ分析説明セシムルニハ、(一)官廳ハ一人又ハ數人ヲ以テ之ヲ組織ス。一人ヲ以テ組織シタル官廳ハ之ヲ單獨制ノ官廳ト稱シ數人ヲ以テ組織シタル官廳ハ之ヲ合議制ノ官廳ト稱ス。後ニ詳論スヘシ)而シテ官廳ノ組織ニ關シテ各人カ一定ノ範圍ノ事務ヲ委任セラルルカ爲メノ位地ヲ稱シテ官ト謂ヒ官ニ屬スル事務ヲ職ト謂フ例ヘハ地方裁判所ハ一ノ官廳ニシテ判事ト稱スルハ官ナリ又某地方裁判所判事ト云フハ職ナルカ如シ然レトモ此區別ハ現行法ヲ通シテ嚴密ニ認メラレタルモノニ非ス或ハ官名ニシテ官廳名ヲ兼スルコトアリ又ハ職名ヲ兼スルモノ其例乏シカラス

(二)官廳ハ必スシモ官吏ノ名稱ヲ有スル人ヲ以テ組織セラルルモノニ非ス或ハ待遇官吏ナルト又ハ囑託雇等ノ名義ニ依ルモノナルトヲ論セス苟モ官廳ノ要素ヲ具備スル機關ヲ組織セルニ於テハ之ヲ官廳ト謂フヲ得ヘカラサルノ理ナキナリ我現行制ハ此點ニ關シ毫モ相當ノ制限ヲ設ケザレハナリ

(三)官廳ハ國家ノ命令權ニ屬スル事務ヲ管掌スル命令權ノ行使ト稱スルハ所

謂私法上ノ國家若クハ事業執行者タル國家ニ非サル國家即チ所謂公法上ニ於ケル國家ノ統治權ヲ行使スルコトヲ指稱ス故ニ知事又ハ郡長ノ如キハ皆官廳ナリト雖モ造幣局若クハ鐵道作業局ノ如キハ官廳ニ非サルナリ又單ニ國家ノ爲メニ私法上ノ法律行為ノミヲ爲スヲ以テ目的トスル機關存スル場合ニ於テハ此機關ハ官廳ト稱スルヲ得ス

官廳ハ必ス外部ニ對シテ自ラ意思ヲ決定發表セザルヘカラス單ニ準備行為又ハ執行ノ行為ヲ爲スカ如キハ官廳ニ非ス又單ニ公用ニ供セラルル設備例ヘハ官立學校病院ノ如キ官制其他ノ法令ニ依リテ設置セラレタルモノト雖モ亦官廳ニ非サルナリ

(三)官廳ノ處理スル事務ハ一定ノ範圍ヲ有セザルヘカラスニ若シ官廳ノ處理スル事務ニシテ一定ノ範圍ヲ有セザルニ於テハ是レ即チ統治權ノ總テヲ總攬スルノ結果ト爲リ天皇ト稱フ所ナキニ至ラン故ニ官廳ハ有限ノ職務ヲ有セザルヘカラス而シテ官廳ノ事務ヲ定ムル方法ニハ分職制及七分地制アルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ而シテ之ニ依リテ定マリタル官廳ノ事務ノ範圍ハ即チ權

限ニシテ此權限内ニ於テノミ國家ノ意思ヲ決定發表スルコトヲ得ヘク此權限ヲ超越シテ或行爲ヲ爲セシコトカ法令上決定セラレタル後ハ其行爲ハ最早國家ノ行爲ニ非スシテ一私人ノ行爲ナリト謂ハサルヘカラス又官廳ノ權限ハ一私人ノ權利ト同シク他ノ官廳カ之ヲ侵スコトヲ許ササルナリ若シ之ヲ侵犯シタルトキハ則チ權限爭議ヲ惹起シ第三機關ノ裁定ヲ要スルニ至ルヘシ

(四) 官廳ハ法令ニ依リテ創設セラレサルヘカラス 此法令ハ主トシテ命令即チ官制ナリト雖モ時トシテ法律等ニ依リ定メラルルコトアルハ前ニ述ヘタリ官制ハ分配ヲ定ムルヲ原則ト爲セリト雖モ時トシテ職權ヲ創設スルコトアルハ既述ノ如シ其法律ヲ以テスルモノハ職權ヲ創設シテ同時ニ之ヲ特定官廳ニ固著セシムルモノニシテ此二ノ事項カ同時ニ行ハルルモノナリ

(五) 官廳ハ國家ノ意思ヲ外部ニ發表セサルヘカラス 官廳ト國家トノ關係ハ民法上ノ代理人ト本人トノ關係ト酷似セリ即チ自己ノ爲メニ非スシテ國家ノ爲メニ意思ヲ決定シ其效果ハ直接ニ國家ニ及ホスモノナラサルヘカラス又官廳ハ國家ノ意思ヲ決定スルノ權能ヲ有セサルヘカラス即チ少クトモ處分權ヲ

有スルコトヲ要ス命令權ヲ有スルハ意思決定ノ大ナルモノナリ

(六) 官廳ハ機關ノ一ナリ 官廳ニハ自主自存ノ目的ナク又固有ノ意思ヲ有セス其目的ハ國家ノ爲メニ存在スルモノニシテ自己ノ爲メニスルモノニ非ス又其決定シタル意思ノ效力ハ自己ノ爲メニ利害ヲ生スルコトナシ畢竟官廳ハ國家ノ手足ナリト謂フヘシ唯便宜上ノ例外トシテ行政裁判ノ如キ場合ニハ人格ヲ與フルカ如キコトアルニ過キス

### 第三節 官廳ノ種類

官廳ノ種類ハ其觀念ノ立脚點ヲ異ニスルニ從ヒ種種ニ分類スルコトヲ得ヘシト雖モ茲ニハ唯其主要ナルモノヲ掲タルニ止ムヘシ即チ第一組織ニ依ル官廳ノ區別第二職務權限ニ依ル官廳ノ區別第三管轄區域ニ依ル官廳ノ區別第四職務ノ形式ニ依ル官廳ノ區別ノ四種ニ付テ左ニ之ヲ略說スヘシ

(第一) 組織ニ依ル官廳ノ區別

組織ニ依リテ官廳ヲ區別スルトキハ獨任制ノ官廳及ヒ合議制ノ官廳ノ二ト

爲ル前者ハ一人ヲ以テ組織セラレタルモノヲ謂ヒ後者ハ數人ヲ以テ組織セラレタルモノヲ謂フ而シテ數人ヲ以テ官廳ヲ組織シタルトキハ各個人ノ意思ヲ官廳ノ意思ト爲スノ方法ニ關シテ法令ノ規定アルコトヲ要ス此方法中最モ多ク用ヒラルルハ即チ過半數ニ依リテ官廳ノ意思ヲ定ムルノ方法是ナリ此二種ノ官廳ハ政治論トシテハ何レモ一長一短アルコトヲ免レス合議制ニ於テハ慎重ノ審議ヲ必要トシ各種ノ方面ヨリシテ觀察討議スルコトヲ要スル事項例ヘハ裁判ニ關スル事務ノ如キ又助長事務ノ範圍ニ屬スル事項ノ如キヲ處理スルニ適シ獨任制ノ官廳ハ敏捷ナル行動ヲ要シ臨機ノ處置ヲ爲ササルヘカラナル事務ヲ處理スルニ便ナリトス例ヘハ警察事務ノ如キハ獨任制ノ官府ニ處理セシムルニ適セリト謂フヘシ而シテ近來ノ傾向ハ漸ク合議制ヨリ獨任制ニ推移セントスルモノノ如シ

合議制ノ官廳モ往々多少獨任制ノ主義ヲ加味スルモノ尠カラズ即チ輕微ナル事項ハ議長之ヲ專決シ事後ニ於テ其報告ヲ爲サシムルコトト爲シ又ハ議決ヲ以テ議長ニ專決處分ヲ委任スルノ途ヲ開ケルカ如キ是ナリ然レトモ此

二ノ組織ハ其一ニノミ偏スルコトヲ得サルカ故ニ各國共ニ之ヲ併用シ中央官廳ハ概テ獨任制ナリト雖モ地方團體ニ附屬セル行政廳例ヘハ參事會ノ如キハ合議制ノ組織ニ從フヲ以テ通例ト爲スニ至レリ

(第二) 職務權限ニ依ル官廳ノ區別

此標準ニ依リテ官廳ヲ分ツトキハ分地分職ノ二ト爲ル前者ハ一定ノ土地ニ於ケル一切ノ政務ヲ處理スルノ職權ヲ有スルモノヲ謂ヒ後者ハ一定ノ政務ニ付テハ全國ニ涉ル職權ヲ有スルモノヲ謂フ此二ノ組織モ亦其一ニノミ偏スルコトヲ得ス即チ事體重要ニシテ而モ行政ノ統一ヲ保持スルコトヲ要スル政務ニ付テハ分職制ニ依ルヲ可ト爲スモ政務ノ枝葉ニ涉リ各地ノ事情ニ應シテ寬嚴其授ヲ一ニスヘカラサル事務ニ付テハ分地制ニ依ルヲ便ナリトス我邦ニ於テモ各省大臣ハ分職制ニ依リテ其職務權限ヲ配付セラレ府縣知事ハ分地制ニ依リテ其事務ヲ執ルコトト爲レリ

(第三) 管轄區域ニ依ル官廳ノ區別

管轄區域ヲ標準トシテ官廳ヲ區別スルトキハ中央官廳及ヒ地方官廳ノ二ニ



數ル中央官廳トハ全國ニ涉リテ效力アル命令ヲ發スルコトヲ得ルモノヲ謂  
ヒ地方官廳トハ一定ノ地域ニ對シテノミ有效ナル命令ヲ發スルコトヲ得ル  
モノヲ謂フ此區別ハ第二ニ揭ケタル區別ト相異ナルモノナルヲ以テ混同セ  
ラシコトヲ要ス即チ分地制ノ官廳ト雖モ時トシテ中央官廳タル場合アリ  
又中央官廳ハ必スシモ分職制ノ官廳ニ非サルナリ(例ハ舊拓殖務省ノ如シ)

(第四) 政務ノ形式ニ依ル官廳ノ區別

政務ノ形式ニ依リテ官廳ヲ區別スルトキハ司法官廳及ヒ行政官廳ノ二ト爲  
スコトヲ得ヘシ而シテ前者ハ所謂司法事務ヲ處理スル官廳ニシテ通常及ヒ  
特別ノ裁判所ヲ指シ後者ハ所謂行政事務ヲ處理スル官廳ニシテ裁判所以外  
ノ官廳ヲ稱ス

以上説述セシ所ハ官廳ノ重要ナル分類ナリ然ルニ獨逸學者或ハ第五ノ區別ト  
シテ附屬スル團體ニ依ル區別ヲ認ムル者アリ其説ニ曰ク獨逸ノ官廳ハ肢レテ  
三ト爲ル即チ帝國ノ官廳各邦ノ官廳公共團體ノ官廳是ナリト此分類ハ獨逸ニ  
限リテ行ハルルモノナリト雖モ此區別ノ標準ヲ我邦ノ制度ニ適用スルトキハ

國ノ官廳及ヒ公共團體ノ官廳ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ元來公共團體  
ハ國家ヨリ分立シタル公法上ノ人格者ニシテ議決機關執行機關ヲ離レテ特ニ  
官廳トシテ論スヘキモノナキヲ以テ此分類法ハ我邦ニ之ヲ適用スルコト能ハ  
ス

以上列舉シタル官廳ノ分類中其第一、第二、標準、シテ、現行制度ニ於ケル各種  
官廳ノ組織及ヒ權限ノ大要ヲ述ヘシ

(第一) 中央官廳

(一) 内閣總理大臣 内閣總理大臣ハ一方ニ在リテハ國務大臣ナルト同時ニ他  
方ニ在リテハ行政官廳ナリ而シテ内閣總理大臣ノ地位カ重要ナル所以  
ノモノハ一ニ國務大臣タルノ點ニ存シテ行政官廳タルノ點ニ存セザルナリ  
其行政官廳トシテ有スル職權ハ甚タ狹シ即チイ公文式ノ規定スル所ニ從ヒ  
テ行政各部ノ統一ヲ保持セシカ爲メ及ヒ恩給扶助料等ニ關スル事項ニ付テ  
閣令ヲ發スルコト(口恩給及ヒ扶助料等ヲ受クヘキ權利ノ裁定及ヒ其支給ニ  
關スル事項ヲ掌ルコト)(行政各部ノ處分又ハ命令ニシテ違法若クハ公益ヲ

審スト認メタルトキハ之ヲ中止セシメテ勅裁ヲ請フノ職權アルコト是ナリ

(一) 内閣 内閣ハ國務各大臣ヲ以テ組織スル合議制ノ官廳ニシテ其重キヲ爲ス所以ノモノハ一ニ國務各大臣カ補助事項ニ關スル合議ヲ爲スカ爲メニシテ行政、法、上、官廳トシテ有スル職權ハ唯イ土地收用ノ認定及ヒ(ロ)各省大臣ノ主管爭議ノ裁定權是ナリ

内閣ハ太政官ニ於ケルカ如ク各省ニ對シテ指揮命令ノ權ヲ有スル上級監督官廳ニ非ス各省大臣ハ一定ノ事項ニ付テハ閣議ノ議定ヲ經ヘキ義務ヲ有スト雖モ其決定ニ拘束セラルヘキ義務ヲ有セサルナリ蓋シ各省大臣ハ其主管事務ニ關シテ直接ニ天皇ニ對シテ其責ニ任スレハナリ

内閣ニ附屬セル補助官廳若クハ官署ハ數多アリ其中恩給局長ノ如キハ官廳トシテ處分ヲ行フコトヲ得ルモノナリ

(三) 樞密院 樞密院ハ憲法上重要ナル地位ヲ有スルモノナリト雖モ行政、法、上、官廳トシテ論スヘキハ行政裁判法第二十條及ヒ第四十五條ニ樞密院ハ權限裁判所ヲ設クルマテ行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ於ケ

ル權限爭議ヲ裁定スト規定シタルノ一點是ナリ然レトモ此裁定ニ關シテハ今日ニ至ルマテ未タ其手續法備ハラサルカ故ニ職權ヲ實行シタルコトナシ

(四) 各省大臣 重要ナル國家ノ事務ハ裁判所ヲ除クノ外各省大臣ニ分配セラレ各省大臣ハ其分配ヲ受ケタル事務ニ關シテハ最高ノ官廳ナリ而シテ各省大臣ノ權限(一)各種ノ實體法令(二)各省官制通則及ヒ(三)各省官制ニ依リテ規定セララルル所ナリ今外務大藏陸軍海軍司法、文部農商務逓信ノ九ノ各省大臣ニ付キ一其職務權限ヲ述フルノ煩ヲ避ケ左ニ各省官制通則ノ規定ニ依リテ其一般ヲ例示スルニ止メントス

(イ) 省令發布權 此省令ニハ二十五圓以内ノ罰令、二十五日以内ノ禁錮ノ罰則ヲ付スルコトヲ得

(ロ) 地方官廳監督ノ權限 各省大臣ハ地方長官ヲ監督シ之ニ對シテ指揮命令ヲ爲シ此等ノ官廳ノ命令若クハ處分令ニシテ違法又ハ公益ヲ害スルトキハ停止、取消ノ處分令ヲ發スルコトヲ得

(ハ) 部下官吏進退指揮ノ權限 各省大臣ハ其部下ノ官吏ノ任免ニ關シテ許

多ノ權限ヲ有シ法令ノ定ムル所ニ從ヒテ其進退ノ指揮ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

(五) 行政裁判所 行政裁判所ハ其裁判所ニ出訴ヲ許サレタル違法處分ニ依ル公權侵害等ノ訴訟ヲ受理スル合議制ノ官廳ナルコトハ前ニ説明シタルヲ以テ之ヲ略ス

(六) 會計検査院 會計検査院ハ官金ノ收入支出官有物及ヒ國債ニ關スル計算ヲ検査確定シテ一般國家ノ會計ヲ監督スル中央官廳ヲ謂フ詳細ハ財務行政ノ章ニ譲ル

(第二) 地方官廳

地方官廳カ上級官廳ニ隸屬スルハ遞次階梯ヲ爲スモノニシテ其階梯ニ依リ地方官廳ヲ分ツトキム(甲)第一次ノ官廳及ヒ(乙)第二次ノ官廳ノ二ト爲スコトヲ得

(甲) 第一次ノ官廳

(一) 府縣知事 府縣知事ハ府縣ナル行政區畫ヲ以テ其管轄區域ト爲セル獨

任制ノ官廳ナリ府縣知事ハ内務大臣ノ監督ヲ受ケ各省主管ノ事務ニ付テハ各省大臣ノ監督ノ下ニ立テテ法令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理シ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リテ府縣令ヲ發スルコトヲ得而シテ此府縣令ニ於テハ十圓以内ノ罰金及ヒ拘留以下ノ自由刑ヲ科スルコトヲ得ヘシ又非常急變ノ場合及ヒ警護ノ爲メニ兵力ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請求スルコトヲ得ヘシ其他府縣知事ハ其下級官廳タル郡長又ハ島司ノ命令又ハ處分令ヲ違法又ハ公益ヲ害シ若クハ權限ヲ侵スモノナリト認メタルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルノ權ヲ有ス

以上ハ官制ニ依ル府縣知事ノ職權ナリト雖モ官制以外ノ法令ニ依リテ有スル權限ハ一一枚舉スルニ逸アラザルナリ

(一) 警視總監 警視總監ハ直接ニ内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケテ東京府管内ニ於ケル警察及ヒ監獄ノ事務ヲ掌ル官廳ナリ而シテ警視總監ハ各省ノ主管ニ屬スル警察事務ニ付テハ各省大臣ノ監督ヲ受ケ高等警察ノ事務ニ付テハ特ニ總理大臣ノ監督ニ服ス

警視總監ハ府縣知事ト同シテ其主任ノ事務ニ付テ廳令ヲ發スルノ權限ヲ有ス其他法令ニ依リ與ヘラレタル權限ハ尙ホ少カラス

(三) 北海道廳長官 北海道廳長官ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ事務ニ付テハ各省大臣ノ指揮ヲ受ケテ法令ノ執行及ヒ北海道ノ拓殖移民並ニ部内ノ行政事務ヲ總理シ屯田兵ノ開墾授産ノ事務ヲ監督スルノ職權ヲ有ス其他廳令ヲ發シ出兵ヲ要求スルノ權支廳長ノ監督權法令ニ依リテ得タル特別ノ職權等ハ大要一般府縣知事ト同シ

(四) 臺灣總督 臺灣總督ハ陸海軍ノ大將若クハ中將ヲ以テ組織シ臺灣及ヒ澎湖列島ヲ以テ其管轄區域トスル所ノ獨任制ノ官府ナリ而シテ其職權ハ他ノ第一次ノ地方官廳ニ比シテ甚タ廣大ト爲ス即チ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統帥シ內務大臣ノ監督ヲ受ケテ諸般ノ政務ヲ處理シ軍政及ヒ陸海軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸海軍大臣防禦作戰並ニ勳員計畫ニ關シテハ參謀總長若クハ海軍軍令部長陸軍軍令部長ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ受ク又總督ハ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リテ府令ヲ發シ之ニ一年以下

三ノ禁錮二百圓以内ノ罰金ヲ科スルコトヲ得而シテ其管内ノ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ必要ナリト認メタルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得ヘシ又總督ハ守備隊長若クハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルノ職權ヲ有ス其他下級官廳ノ監督權及ヒ法令ニ依リテ得タル特別ノ權限ハ枚舉スルニ遑アラザルナリ

以上舉示シタルモノハ總督府官制ニ依ル總督ノ職權ナリト雖モ明治二十九年法律第六十三號ニ依リテ更ニ大ナル職權ヲ與ヘラレタリ即チ總督府評議會ノ議決ニ依リ勅裁ヲ經テ法律ノ效力アル命令ヲ發スルノ權是ナリ此命令ハ即チ律令ニシテ臨時緊急ノ場合ニハ議決ヲ經ス又勅裁ニ依ラスシテ之ヲ實施スルコトヲ得ヘシ唯此場合ニ於テハ事後勅裁ヲ經サルヘカラスト雖モ若シ不裁可ノ場合ニ在リテハ總督ハ將來ニ於テ效力ヲ失フモノトシキコトヲ公布スルヲ以テ足レリ此職權ハ本年三月三十一日限り失フモノトス

以上ノ外特別官廳トモ稱スヘキ第一次ノ地方官廳ニ屬スルモノハ抄シトセ

ス而シテ此等ノ官廳ハ概テ特別ノ行政事務ヲ處理スル官廳ニシテ其職權ハ狭キニ從ヒテ解釋セラルルモノナリ例ヘハ内務大臣ノ下ニ海港檢疫官大藏大臣ノ下ニ稅務管理局長外務大臣ノ下ニ領事官農商務大臣ノ下ニ大林區署長嶺山監督署長等アルカ如キ是ナリ

(2) 第二次ノ官廳

(一) 郡長及ヒ島司 郡長及ヒ島司ハ府縣内ノ郡若クハ勅令ニ依リテ指定セラレタル島地ヲ以テ管轄區域トスル獨任制ノ行政官廳ニシテ知事又ハ警視總監ノ命ヲ受ケテ法令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ處理シ及ヒ其管内ノ町村長ヲ監督ス又郡長ハ法令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事項ニ付キ郡令ヲ發スルコトヲ得其他郡長カ法令ニ依リテ特ニ有スル職權尠シト爲ササルナリ

(二) 支廳長 支廳長ハ北海道ニ於テ支廳ノ管轄區域ニ屬スル行政ヲ行フ獨任制ノ官廳ニシテ其權限ハ大要郡長ニ同シ

(三) 臺灣ノ廳長 臺灣總督ハ内務大臣ノ監督ヲ受クル第一次ノ地方官廳ナ

リト雖モ是レ唯内地ニ對スル關係ニ付テ然ルノミニシテ臺灣ノミニ付テ之ヲ觀察スルトキハ大約内務大臣ト同一若クハ其以上ノ地位ニ立ツモノナリト謂フモ過言ニ非ザルナリ而シテ臺灣ヲ分チテ二十有一ノ廳管轄區域ト爲シ各廳ニ廳長ヲ置ク其職權ハ大要内地ニ於ケル府縣知事ニ相應スルモノニシテ各般ノ行政事務ヲ監理シ法律命令ヲ執行シ街庄社長ヲ監督スルコト等ノ事務ヲ管掌ス廳長ハ其事務ノ範圍ニ於テハ内地ノ知事ヨリ廣シ即チ臺灣ニハ特別地方官廳尠キカ故ニ内地ニ在リテ稅務管理局嶺山監督署大林區署等ニ屬スル事務ハ總テ廳長ニ於テ之ヲ掌ルカ如キ是ナリ其他第三次ノ行政廳トモ稱スヘキハ内地ニ在リテハ市町村長ノ如キ小林區署ノ如キ臺灣ニ在リテハ街庄社長ノ如キアリト雖モ重要ナラサルヲ以テ之ヲ省ク

以上説述シ來リタル所ハ現行制度ニ於ケル總テノ官廳ヲ網羅シタルモノニ非スシテ唯其重要ナルモノノミヲ例示シタルニ止マルヲ以テ其他ノ官廳ニ付テ之ニ準シテ詳細研鑽セラルヘシ

### 第四節 官廳ノ監督

官廳ノ監督トハ官廳ヲシテ(一)法規ニ適合シ及ヒ公益ヲ增進スル命令又ハ處分  
 令ヲ發セシムルカ爲メ及ヒ(二)法規ニ違背シ又ハ公益ヲ害スル命令又ハ處分令  
 ヲ發シタル場合ニ於テ其命令又ハ處分ノ效力ヲ停止シ又ハ消滅セシムル爲メ  
 ニ活動スル統治權ノ作用ナリ  
 官廳ノ監督ニ二種アリ即チ一ハ元首又ハ上級機關ノ監督ニシテ之ヲ直接監督  
 ト稱ス他ハ特別ナル機關ニ依ル監督ニシテ間接監督ト稱ス以下此二者ニ付テ  
 詳説スヘシ

(第一) 直接監督 官廳ノ監督ハ上級ノ行政機關ヲシテ之ニ當ラシムルヲ  
 原則トシ元首親ヲ官廳ヲ監督スルヲ以テ例外トス蓋シ官廳ノ監督ト雖モ其  
 他ノ行政事務ト同シク必スシモ元首親ヲ之ヲ行フノ必要存セサルヲ以テナ  
 リ然レトモ法令ハ往往元首ノ監督權ヲ規定セルモノアリ例ヘハ内閣總理大

臣ノ中止處分ヲ是認シ若クハ否認スルカ如キ又臺灣總督ノ發スル律令ノ當  
 否ヲ勅裁スルカ如キ是ナリ

(二) 上級官廳ノ監督 凡ソ官廳ノ上級ノ下級ヲ定ムルノ標準ハ必スシモ其官廳  
 ノ組織スル官吏ノ官等位階等ニ依ルニ非スシテ法規ノ規定シタル監督權ノ  
 所在ニ依ルモノナリ是ヲ以テ上級官廳ト稱スルハ其實法令ノ規定セル監督  
 權ヲ有スル官廳ト云フ意義ニ外ナラサルナリ  
 官廳ニ對シテ監督權ヲ有スル官廳ハ其官廳ニ對シテ法令ノ規定シタル範圍  
 内ニ於テノミ監督權ヲ有スルモノナリ隨テ其範圍内ニ於テノミ上級官廳タ  
 ルモノトス世上往往上級官廳ハ先天的ニ存在スルモノノ如ク論スル者アリ  
 ト雖モ誤ナリ而シテ上級官廳ノ監督權ハ法令ノ規定ニ根據スルモノナルカ  
 故ニ其範圍及ヒ其範圍内ニ於テ監督權ヲ實行スルノ手段ニ關シテモ亦一ニ  
 法ノ規定ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス現行制度ノ實際ヨリ言フトキハ其  
 規定ノ不備ナルカ爲メニ或特種ノ監督權ヲ有スル事實ヨリシテ全ク之ト異  
 ナリタル他ノ監督權ノ存在ヲ曲認スルカ如キ解釋ヲ採ルコトアリト雖モ實

際上ハ兎モ角學理トシテハ絕對的ニ否認セサルヘカラス。左ニ通常法令ノ規定スル監督權及ヒ其實行ノ手段ニ付キ重要ナルモノヲ示スヘシ

(イ) 訓令 訓令ハ上級官廳カ下級官廳ニ對シテ將來ニ於テ其事務ヲ處理スヘキ方針ヲ指示センカ爲リ又ハ既往ノ失敗ヲ矯正スルノ目的ヲ以テ之カ指揮命令ヲ爲スコトヲ謂フ訓令ハ官廳ノ内部ニノミ效力ヲ有スルモノニシテ外部ノ臣民ニ對シテハ何等效果ヲ及ホスモノニ非ス故ニ臣民ニ對シテハ毫モ權利ヲ創設スルモノニ非サルナリ是ヲ以下級官廳カ訓令ニ反シ臣民ニ對シテ爲シタル行爲ニ付テハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス或ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ場合ト雖モ其起訴ノ理由トシテハ訓令違背ノ點ヲ供述スルコトヲ得サルモノトス

(ロ) 取消廢止及ヒ停止 上級官廳ハ訓令ニ依リテ下級官廳ヲシテ其處分若クハ命令ノ取消廢止及ヒ停止ヲ爲サシムルコトアルヘシト雖モ茲ニ所謂取消廢止及ヒ停止トハ大ニ之ト異ナリ專ラ上級官廳自身カ其意思ヲ人民

ニ表示シ直接ニ人民ニ對シテ下級官廳カ爲シタル命令又ハ處分令ノ效力ヲ一時限リ若クハ永久ニ失ハシムルノ方法ヲ謂フニ外ナラス左ニ之カ性質ヲ述フヘシ

(1) 取消 取消トハ上級官廳ニ於テ違法ナリト認メタル場合ニ下級官廳ノ爲シタル命令又ハ處分令ヲ初ヨリ之ヲ發セサルモノト同様テリト宣言スルノ處分令ヲ謂フ換言スレハ命令及ヒ處分令ニシテ取消サレタルトキハ其取消ノ效力ハ單ニ將來ニ對シテノミナラス尙ホ其命令ヲ發シタル當時ニ遡及シ其之ニ依リテ發生消滅シタル權利義務ハ總テ原狀同復ヲ爲スモノトス

(2) 廢止 廢止ノ處分トハ上級官廳ニ於テ下級官廳ノ命令又ハ處分令カ公益ヲ害スルモノト認メタル場合ニ於テ將來ニ向ヒテ其效力ヲ失ハシムル處分令ヲ謂フ

(3) 停止 停止ノ處分トハ一時下級官廳ノ命令又ハ處分令ノ效力ヲ中止セシムル效力ヲ有スルモノニシテ違法又ハ公益ヲ害スルノ疑アリテ其

認定ノ未タ定マラザル場合等ニ發スルモノヲ謂フ  
 更ニ前掲三者ノ區別ヲ詳説セン  
 (1) 命令又ハ處分令ニシテ違法ナリトノ決定アリタルトキハ初ヨリ無効ナルコトハ理論上當然ノ條理ナリト雖モ人民ハ官廳ノ爲シタル行爲ニ對シテ法令上何等ノ決定權ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ所謂救濟手段ニ依リテ其權利ノ回復ヲ求ムルノ手段ヲ探ルノ外服從ノ義務ヲ負フモノナリ而シテ取消ノ處分令トハ法令ニ依リテ上級官廳カ下級官廳ノ行爲ヲ違法ナリト決定スルコトヲ得ル場合ニ於テ之カ決定ヲ爲シタルニ依リテ生スルモノナリトス  
 (2) 前者ニ反シテ下級官廳ノ命令又ハ處分令カ公益ヲ害スルノ事實カ決定セラレタル場合ト雖モ苟モ違法ニ非サル以上ハ其命令又ハ處分令ノ成立ヲ害スヘキ理由ナキヲ以テ初ヨリ遡リテ其無効ヲ宣言スルノ必要ナク又其無効ヲ宣言スルハ法規ノ威信ヲ害スルモノニシテ特別ノ規定ナキ限ハ無効ヲ宣言シテ遡及力ヲ有セシムルコトヲ得サルモノトス然

レトモ將來ニ對シテノミ其效力ヲ失ヘシムルハ理論上穩當ニシテ上級官廳ハ法令ノ規定ニ依リテ此處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ  
 (3) 下級官廳ノ命令又ハ處分令ニシテ違法ナルカ將タ公益ヲ害スルカノ認定未タ定マラスシテ而モ其存在ヲ否認スヘキトキハ一時其效力ヲ停止セシムヘキハ理論上正當ノ條理ナリト謂フヘシ  
 以上述ヘタル三箇ノ處分ハ其取消ヲ除クノ外ハ現行法ハ之ヲ認容セリ然リ而シテ訴訟ノ裁決ト其實質ハ上述三箇ノ處分ヲ包括スルモノナリト雖モ此場合ニ在リテハ裁決ナル形式ニ由リテ行ハルルヲ例トス  
 (二) 主管爭議ノ裁定 主管爭議ノ裁定トハ下級官廳カ相互ノ間ニ於テ權限上爭アル場合ニ上級官廳カ其爭ヲ裁決スルヲ謂フ訓令權アル上級官廳ナルトキハ主管爭議ノ裁定ハ訓令權中ニ包括セラレヘシト雖モ訓令權ヲ有セザル場合ニ於テハ明文ヲ以テ此權限ヲ設定セラレルモノトス例ヘハ内閣ノ主管爭議裁定權直近上級裁判所ノ主管爭議裁定權ノ如キ是ナリ  
 (三) 組織ノ變更懲戒及ヒ代執行 組織ノ變更トハ下級官廳カ上級官廳ノ命



令ニ從ハサル場合若クハ之ニ從フモ十分ニ其義務ヲ盡ササルトキニ於テ其官廳ヲ組織スル官吏ヲ變更スルコトヲ謂フ又代執行トハ下級官廳カ或行爲ヲ爲ササル場合ニ於テ上級官廳カ其下級官廳ノ位地ヲ奪ヒ自ラ代リテ或行爲ヲ執行スルコトヲ謂ヒ其ニ法令ノ規定アル場合ニ限り行ハルルモノトス

(第二) 間接監督

間接監督トハ系統ヲ同シウセサル特別官廳ニ依リテ間接ニ監督セララルコトヲ謂フ行政裁判所權限裁判所會計検査院ノ如キハ其機關タリ其詳細ニ至リテハ行政各部ニ於テ之ヲ論究スヘシ學者咸ハ議會ノ監督及ヒ司法裁判所ニ依ル監督等ヲ以テ之ニ屬スト爲ス者アリト雖モ議會ハ天皇統治權ノ内部ニ活動スル機關ニシテ行政機關ニ對シ何等法令上ノ職權アルモノニ非ス其實同上奏建議等ノ權限ハ事實ニ於テ當局者ヲ警戒スルコトアルヘシト雖モ其性質憲法上ノ規定事項ニ屬スルヲ以テ行政法上ノ監督ト爲スハ其當ヲ得タルモノニ非ス

又司法裁判所ハ私法上ノ關係ニ於テ官廳ニ對シテ判決ヲ爲スコトアリト雖モ是レ行政法ニ於ケル公法上ノ監督ニ非ス然レトモ現行法ハ往往司法裁判所ヲシテ行政處分ヲ覆審セシムルノ途ヲ開ケリ遂憲ナルヤ適憲ナルヤハ姑ク之ヲ措キ此點ヨリ觀ルトキハ司法裁判所ハ同シク間接監督ノ作用ヲ爲スモノト謂フヘキナリ

第五節 官廳ノ權限爭議

官廳ノ權限トハ官廳カ法令ニ依リテ委任セラレタル事務ノ範圍ナリ官廳ノ權限ハ他ノ官廳ニ對シテハ私人ノ權利ト同シク各官廳相互ノ間ニ侵スヘカラザル意思ノ限界タルモノトス私人ハ其意思ヲ自己ノ生存目的ノ爲メニ主張シ官廳ハ國家ノ目的ノ爲メニ意思ヲ發表シ直接ニ國家ニ對シテ其效力ヲ生スル點ニ於テ其性質ヲ異ニスルニ過キス而シテ官廳ノ權限ハ官制其他ノ法令ニ基ク所ノ事務ノ分配ニ因リテ定マル此分配規定ハ同一ノ事務ヲ同時ニ二箇以上ノ官廳ニ分配セサルモノナリト雖モ或ハ立法ノ欠缺ニ因リ或ハ官廳ノ錯誤ニ因

リ或ハ見解ノ異ナルニ因リテ權限上ノ爭議ヲ生スルハ免レサル所ナリ即チ(一)二箇ノ官廳カ同一事件ヲ各其權限ニ屬スルモノナリト主張スルコトアリ積極的權限爭議(二)一箇ノ官廳カ同一事件ヲ各其權限ニ屬セスト主張スルヨリ生スルコトアリ(消極的權限爭議又ハ非權限爭議)權限上ノ爭議ハ其之ヲ惹起シタル官廳ノ法令上ノ位置ヨリ區別シテ主管爭議(職權爭議トモ謂フ)ト權限爭議(狹義ノ權限爭議トモ謂フ)ノ二ト爲ス前者ハ組織系統ヲ同シクスル二箇ノ官廳間ニ生スル爭議ニシテ(イ)同一ノ行政官廳ニ隸屬スル下級官廳相互ノ間ニ生スル爭議(ロ)中央最高行政官廳ニ生スル爭議(司法官廳タル裁判所ノ間ニ生スル爭議)三ヲ包含ス又後者ハ組織系統ヲ異ニスル二箇ノ官廳間ニ生スルモノニシテ(イ)司法裁判所(行政裁判所)行政官廳ノ三者ノ間ニ交互ニ生スル權限爭議ヲ總稱ス今此區別ニ從ヒ權限爭議ヲ説明スヘシ

(第一) 主管爭議

主管爭議ノ生スル場合ニ三箇アルコトハ前ニ述ヘタルカ如シ而シテ其(イ)ノ場合ニ於テハ上級官廳ハ指揮訓令權當然ノ作用トシテ之カ裁定ヲ爲スヘキモノ

ナリ例ヘハ郡長間ノ爭議ハ知事之ヲ裁定シ知事間ノ爭議ハ內務大臣之ヲ決スルカ如シ(ロ)ノ場合ニ於テハ別ニ指揮訓令權ヲ有スル上級官廳ナキヲ以テ特ニ或官廳ニ之カ裁定ノ權ヲ與ヘタルヘカラス(我國ニ於テハ內閣官制第五條第四號ニ依リ內閣之カ裁定ヲ爲スモノト定メタリ故ニ主管爭議ニ付テハ內閣ハ各省ニ對シテ上級官廳タル地位ヲ有ス(ハ)ノ場合ニ於ケル爭議ハ裁判所構成法第十條ニ依リ各裁判所ヲ併セ管轄スル直近上級裁判所カ當該事件ヲ裁定スヘキ裁判所ヲ定ムルモノトス

(第二) 權限爭議

權限爭議即チ狹義ノ權限爭議ノ場合ニ於テハ其爭議ヲ惹起セシ官廳ハ各組織系統ヲ異ニスルヲ以テ主管爭議ノ(イ)ノ場合ノ如ク容易ニ之カ決定ヲ爲スコト能ハス故ニ(ロ)ノ場合ノ如ク特別ノ明文ヲ以テ第三機關ノ裁定ヲ經ルノ途ヲ開カサルヘカラス我現行法ニ於テハ樞密院ノ權限ニ於テ之ニ關スル管轄ノ規定アルノミ而モ甚タ不備ニシテ未ダ實行セラレタルコトナキハ實テ述ヘタルカ如シ故ニ權限爭議ヲ決スル手段ハ全然缺如セリト謂フモ不可ナシ

今參考ノ爲メニ諸國制度ノ概要ヲ掲ケ其利害ヲ攻究スヘシ

(甲) 第一ノ制度 此制度ハ一國ノ元首又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ裁判權ヲ行ハシムルモノニシテ君主國ニ於テハ閣議ヲ經テ君主之ヲ裁定シ共和國ニ於テハ立法機關之ヲ裁定ス

此制度ハ皆テ普佛兩國ニ行ハレタルモノナリト雖モ此等ノ機關ハ政治上ノ便宜問題ノ爲メニ公正ナル判決ヲ爲シ得サルノ虞アルヲ以テ此制度ハ完全ナルモノト謂フコトヲ得ス

(乙) 第二ノ制度 此制度ハ司法裁判所ニ裁定權ヲ與フルモノニシテ白耳義伊太利及ヒ英吉利等ノ採用スル所ニ屬ス然レトモ此制度ハ當事者ノ一方ヲシテ爭議ヲ裁判セシムルノ結果ヲ生シ判決公正ヲ失スルヲ以テ完全ナル制度ト謂フコトヲ得ス

(丙) 第三ノ制度 此制度ハ元首ノ最高諮詢府例ヘハ樞密院ノ如キ地位ニ在ル官廳ヲシテ裁定權ヲ行ハシムルモノニシテ嘗テ佛蘭西伊太利ニ於テ行ハレタリト雖モ此制度ハ前述二箇ノ制度ニ對スル批難ヲ併セ受ケタルヲ得ス何

トナレハ一方ニ於テハ政治上便宜問題ヲ爲メニ判決ノ公正ヲ失フコトアル其ヘク又他方ニ於テハ當事者ノ一方ヲシテ判決セシムルカ如キ結果ヲ生スルハナリ

(丁) 第四ノ制度 此制度ハ權限爭議裁判所ナル特別ノ機關ヲ設ケ行政官司法官及ヒ行政裁判所ノ評定官ノ三種ノ官吏ノ兼任ヲ以テ組織セラルルモノナリ是レ普佛兩國現行ノ制度ニシテ前述三箇ノ制度ニ對スル批難ハ悉ク之ヲ免ルルヲ得ヘレ我國ニ於テモ將來制定セララルル制度ハ必ス此主義ヲ採用セラルナルヘシ

次ニ權限爭議裁判所ノ受理審判スヘキ爭議事項ノ種別及ヒ權限裁判ノ手續ニ付テ一言セシ

權限爭議ハ三箇ノ場合ニ生スルモノナリ即チ(一)司法裁判所行政裁判所ノ間ニ生スルモノ(二)司法裁判所ト行政廳トノ間ニ生スルモノ(三)行政裁判所ト行政廳トノ間ニ生スルモノ是ナリ此何レノ場合ニ在リテモ右三種ノ官廳ハ皆各自獨立ノ位置ヲ有シ之ヲ總括シテ指揮命令スヘキ機關ナク又相互ニ命令スルノ權

限ナキヲ以テ積極的權限爭論ノ場合ニ於テハ其爭議ノ當事者ノ一方若クハ雙方ニ訴權ヲ與ヘテ訴訟ヲ提起スルノ途ヲ開カサルヘカラス又消極的權限爭論ノ場合ニ於テ其爭議ニ對シテ直接ノ利害關係ヲ有スル私人ニモ亦訴權ヲ與ヘテ官廳ヲ訴追スルコトヲ得セシメサルヘカラス何レノ場合ニ於テモ當該官廳ハ訴訟上ノ關係ニ於テハ行政裁判ノ場合ト同シク一人ノ人格者トシテ取扱ハレ原告又ハ被告トシテ權限裁判所ノ判決ニ服スヘキモノナリ

權限裁判所ヲ組織スル法規ハ法律ヲ以テ規定セラルルヲ要ス何トナレハ司法及ヒ行政裁判所並ニ行政廳ハ法律ニ依リテ其職權ヲ行フコト多キニ居レハナリ又該裁判所ノ裁判官ハ政治上ノ便宜問題ノ爲メニ其節ヲ左右セシメサラシメンカ爲メ之ニ法律上身分ノ保障ヲ與フルノ必要アリ

終ニ臨ミテ裁判所司法及ヒ行政ト行政廳トノ關係ニ付キ從來世ニ行ハレタル學說ヲ指摘シテ茲ニ評論スヘシ

其說ニ曰ク裁判所ハ交互ノ間ニ於テ其權限ノ決定上其ニ均等ノ地位ニ立ツモノナルヲ以テ敢テ優劣アルコトナシト雖モ行政廳ハ裁判所ノ如ク法律ノ規定

雜報

○十五年未滿ノ養子ノ離縁 養子ト爲ラントスル者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得第八四三條第一項ヘク其十五年未滿ノ養子カ協議上ノ離縁ヲ爲スニハ養親ト養子ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ合意ヲ以テセサルヘカラス(第八六二條第二項)然ルニ若シ養子タル者ノ實家ニ父母共ニ在ラサルトキハ如何ニシテ離縁ヲ爲スヘキカ是レ昨年ノ本校卒業試驗問題ニモ上リタリシカ同事項ニ付キ堺市戶籍吏ノ伺ニ對シ民利局長ハ回答ヲ與ヘテ曰ク十五年未滿ノ養子カ離縁ヲ爲ス場合ニ於テ實家ニ父母共ニ在ラサルトキハ民法第七百七十二條第三項ヲ準用シ民第八四六條第一項同第八六二條第二項參看養子ノ親族又ハ養子若クハ實家ニ縁故アル者ヲ會員ト爲シタル親族會養子ニ代ハリテ離縁ノ承諾ヲ爲スヘキモノトス(明治三十四年十一月二十二日(六日)法律第一二二號)

○女婿ト爲ス爲メニスル養子縁組 民法第八百三十九條ニ依レハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但女婿ト爲ス爲メニスル場合ハ推定家督相續人タル男子アル場合ニモ仍ホ養子ト爲スコトヲ得ヘク其養子カ推定家督相續人ヨリ年長タルト否トハ問フ所ニ非サルナリ(民法第九七三條參看)然ルニ推定家督相續人タル男子アル者カ將來其家女ト婚姻セシムル目的ヲ以テ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ議論ノ餘アル所ニシテ消極論ハ右ノ如キハ婚姻ノ性質ニ反スル非文明的ノ行爲ナリトシテ法律ノ精神ニ反スルモノト爲シ積極論ハ我邦ノ慣習ヲ盾トシ法律ニ禁止的明文ナキヲ理由トシテ之ヲ肯定ス法曹會ノ決議モ亦此後說ヲ是認セラレタリ

(明治三十四年十一月九日委  
員會議案第二六一號)

○桑港輸入製茶數量及ヒ其價額 三十四年一月ヨリ同十月マテ十箇月間ニ桑港ニ輸入セシ製茶ハ數量八百四十一萬三千六百五十四封價額百十萬三千三百五十六弗ニシテ其輸入國別額左ノ如シト云フ(二月十一日官報抄録)

日本 六四八四四七二

清國 一六八一、四六八  
印度 二四七、七二四

○米國移住民數 千九百年中ニ米國ニ移住シタル人員ハ合計四十三萬七千三百三十七人ニシテ内歐洲人四十二萬四千七百八人日本人一萬二千六百三十五人其他二人ナリト云フ尙ホ歐洲人中其最モ多キヲ占ムルハ奧匈國人ニシテ十一萬四千四百七十七人次ハ伊國人ニシテ十萬三千五百三十五人次ハ露國人ニシテ九萬千五百七十七人次ハ英國人ニシテ四萬八千二百三十七人内愛蘭人三萬五千七百三十人ナリト云フ(二月十一日萬朝報川崎氏)

○講談會ノ延期 本月十二日開會ノ筈ナリシ講談會ハ本野博士ノ差支ノ爲メ來ル十九日ニ延期セリ

○擬律擬判試驗 去ル十二月二十四日第三年級第一回擬律擬判試驗ヲ執行シタリ其問題左ノ如シ

甲者乙者ニ對シ金一百五十圓ノ債務ヲ負擔シ既ニ清済期限ヲ經過スレトモ  
清済ヲ爲サス依テ乙者ハ甲者ニ對スル支拂命令ヲ申請シ異議申立ノ期間ヲ

經過シタルニ付キ執行命令ヲ申請シ裁判所其申請ニ基キ十一月執行命令ヲ發シタリ

然ルニ甲者ハ其債務ヲ認メスト稱シテ十一月二日放障ノ申立ヲ爲シタリ

茲ニ甲者ニ對シ既ニ期限ノ満レル一百圓ノ債務ヲ負擔セル丙ナル者アリ十

一月四日乙者ヨリ甲者ニ對スル右一百五十圓ノ債務ヲ讓受ケ同日甲者ニ對

シ其讓受ケタル債權ヲ以テ自己ノ負擔スル債務ト相殺セシメトノ意思表示

ヲ爲シタリ但乙者ハ勿論債權讓渡ノ通知ヲ爲セリ

右相殺ハ有效ニ行ハルヘキヤ若シ有效ナリトスルトキハ丙ハ乙者ノ申請シ

タル執行命令ニ依リテ相殺ノ餘分即五十圓ニ付キ強制執行ヲ爲シ得ルヤ又

若シ相殺ヲ爲スコトヲ得ストスルトキハ甲者ハ丙ノ執行ニ對シ如何ナル方

法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

三法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

經過シタルニ付キ執行命令ヲ申請シ裁判所其申請ニ基キ十一月執行命令ヲ發シタリ

然ルニ甲者ハ其債務ヲ認メスト稱シテ十一月二日放障ノ申立ヲ爲シタリ

茲ニ甲者ニ對シ既ニ期限ノ到レル一百圓ノ債務ヲ負擔セル丙ナル者アリ十一月四日乙者ヨリ甲者ニ對スル右一百五十圓ノ債權ヲ讓受ケ同日甲者ニ對シ其讓受ケタル債權ヲ以テ自己ノ負擔スル債務ト相殺セシトノ意思表示ヲ爲シタリ但乙者ハ勿論債權讓渡ノ通知ヲ爲セリ

右相殺ハ有效ニ行ハルヘキヤ若シ有效ナリトスルトキハ丙ハ乙者ノ申請シタル執行命令ニ依リテ相殺ノ餘分即五十圓ニ付キ強制執行ヲ爲シ得ルヤ又若シ相殺ヲ爲スコトヲ得ストスルトキハ甲者ハ丙ノ執行ニ對シ如何ナル方法ヲ以テ異議ヲ唱フヘキヤ(飯田學士)

(注意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ず本紙ヲ切取テ住所氏名及負擔額、金額並ニ學年別月謝ノ月別若クハ何月分ヲ何月分迄ト記入シ負擔額ニ添附スルベシ

納付書

金額( )

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年

月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

金額( )

一金

但第 學年 月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年

月 日

和佛法律學校會計局御中

### 校外生規則摘要

一 講義録ヲ分テテ第一學年、第二學年、第三學年、三部トス

一 講義録ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年 法學通論、民法(第一編及第二編第六卷マデ)、  
刑法(論)、憲法、國際公法、經濟學  
第二學年 民法(第三編)、前法第一編、第二編、第三編、刑  
法(本則)、民事訴訟法(第一編、第二編)、刑事訴訟法(刑事  
第三卷)、民法(第二編第七卷以下、第四編第五編、倉法  
法、第四編第五編)、民事訴訟法(第三編以下)、經濟法、行政  
法、國際私法

一 講義録ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年 五月二十日、第二學年 十月廿五日  
第三學年 十五日、三十日、但二月ニ限り來日

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

第一學年 金三十圓、第二學年 金四十圓  
第三學年 金五十圓、全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早速便ヲ  
以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地  
和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可  
明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可

明治三十五年一月十四日印刷

明治三十五年一月十五日發行

(定價金參拾錢)

東京市牛込區早稻田町三十九番地

編輯兼發行所 小宮 久次郎

印刷者 小宮 山慎好

東京市牛込區久保町三番地

東京市芝區四ノ久保町十二番地

印刷所 金子 活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)